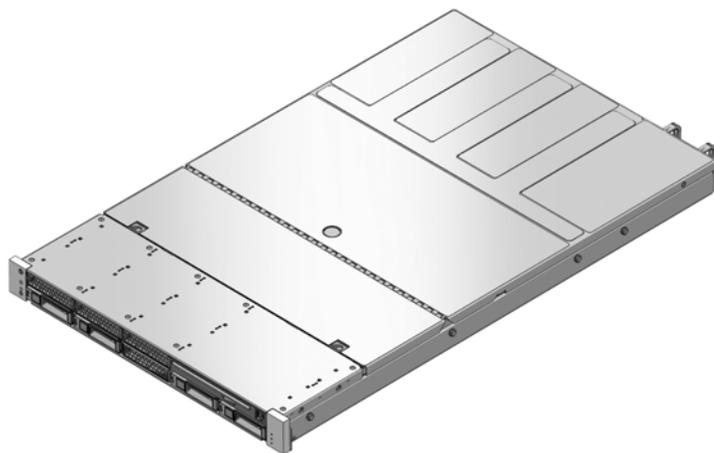


Sun Fire™ X4140、X4240、および X4440 サーバー設置マニュアル



Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 820-5218-10
2008年6月、改訂A

本書についてのご意見・ご感想は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> のフォームを使って弊社までお送りください。

Copyright © 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

未公開 - 本製品に関する権利は、米国著作権法により保護されています。

本製品には Sun Microsystems, Inc. の機密情報および企業秘密が含まれています。Sun Microsystems, Inc. の書面による事前の許可なく使用、公開、または複製することを禁じます。

本製品にはサードパーティーによって開発された素材が含まれている可能性があります。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴ、Java, Solaris, および Sun Fire は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

AMD Opteron および Opteron は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

本製品は、米国輸出管理法の対象であり、これらの法律により管理されます。また、その他の国の輸出または輸入に関する法律の対象となる可能性があります。原子力、ミサイル、生物化学兵器、または海洋核戦力の最終用途での本製品の使用、またはそれらに携わるエンドユーザーによる本製品の使用は、直接あるいは間接を問わず、固く禁じられています。米国の通商禁止国または輸出禁止リストに掲載されている団体、禁止対象の個人や特別に指定された国の国民などに対する輸出または再輸出は固く禁じられています。

CPU の予備品または交換品の使用は、米国の輸出法に準拠して輸出された製品の CPU の修理または 1 対 1 での交換に限り許可されています。米国政府の許可を得ることなく、製品のアップグレード目的で CPU を使用することは、固く禁じられています。

Copyright © 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Non publiée - droits réservés selon la législation des Etats-Unis sur le droit d'auteur.

CE PRODUIT CONTIENT DES INFORMATIONS CONFIDENTIELLES ET DES SECRETS COMMERCIAUX DE SUN MICROSYSTEMS, INC. SON UTILISATION, SA DIVULGATION ET SA REPRODUCTION SONT INTERDITES SANS L'AUTORISATION EXPRESSE, ECRITE ET PREALABLE DE SUN MICROSYSTEMS, INC.

Cette distribution peut inclure des éléments développés par des tiers.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, Solaris et Sun Fire sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

AMD Opteron et Opteron sont marques déposées de Advanced Micro Devices, Inc.

Ce produit est soumis à la législation américaine sur le contrôle des exportations et peut être soumis à la réglementation en vigueur dans d'autres pays dans le domaine des exportations et importations. Les utilisations finales, ou utilisateurs finaux, pour des armes nucléaires, des missiles, des armes biologiques et chimiques ou du nucléaire maritime, directement ou indirectement, sont strictement interdites. Les exportations ou réexportations vers les pays sous embargo américain, ou vers des entités figurant sur les listes d'exclusion d'exportation américaines, y compris, mais de manière non exhaustive, la liste de personnes qui font objet d'un ordre de ne pas participer, d'une façon directe ou indirecte, aux exportations des produits ou des services qui sont régis par la législation américaine sur le contrôle des exportations et la liste de ressortissants spécifiquement désignés, sont rigoureusement interdites.

L'utilisation de pièces détachées ou d'unités centrales de remplacement est limitée aux réparations ou à l'échange standard d'unités centrales pour les produits exportés, conformément à la législation américaine en matière d'exportation. Sauf autorisation par les autorités des Etats-Unis, l'utilisation d'unités centrales pour procéder à des mises à jour de produits est rigoureusement interdite.



リサイクル
してください



Adobe PostScript™

目次

はじめに vii

1. 設置の準備 1

必要な工具と器機 3

オプションのコンポーネントの設置 3

梱包を開く 4

開梱 4

パッケージ内容のリスト 4

オプション 4

静電気放電に関する注意事項 5

設置の概要 5

ケーブル接続時の注意事項 (全サーバー共通) 6

各部の説明 8

Sun Fire X4140 サーバーの前面パネルの各部の説明 8

Sun Fire X4140 サーバーの背面パネルの各部の説明 9

Sun Fire X4240 および X4440 サーバーの前面パネルの各部の説明 10

Sun Fire X4240 および X4440 サーバーの背面パネルの各部の説明 11

ディスクドライブの場所 12

安全上の注意 13

2. サーバーのラックへの取り付け	15
サーバー設置プロセスの概要	15
工具不要レール構成部品とボルト止めレール構成部品	16
互換性の確認	16
スライドレールの取り付け	17
スライドレールからの固定部品の分離	17
サーバーへの固定部品の取り付け	18
工具不要スライドレール構成部品の取り付け	20
ボルト止めスライドレール構成部品の取り付け	20
スライドレール構成部品へのサーバーの設置	23
ケーブル管理アームの取り付け	25
スライドレールと CMA の動作の確認	31
Sun Fire X4140 サーバーへのサーバーケーブルの接続	32
コネクタの位置	33
Ethernet ネットワークケーブル	33
シリアル管理ポート	33
SP ネットワーク管理ポート	34
AC 電源ケーブル	35
VGA ビデオポート	35
USB ポート	35
Sun Fire X4240 および X4440 サーバーへのサーバーケーブルの接続	35
コネクタの位置	36
Ethernet ネットワークケーブル	37
シリアル管理ポート	38
SP ネットワーク管理ポート	38
AC 電源ケーブル	39
VGA ビデオポート	39
USB ポート	39

3.	サービスプロセッサへの接続と設定	41
	概要	42
	CLI の使用	42
	▼ CLI を使用した ILOM への接続	43
	▼ SSH を使用した ILOM への接続	44
	ILOM Web GUI の使用	45
4.	サーバーの電源投入と電源切断	49
	システムの準備	49
	スタンバイ電源の供給	50
	サーバーの電源の投入	50
	▼ サーバーの電源を投入する	50
	サーバーの電源の切断	51
5.	オペレーティングシステムソフトウェアのセットアップ	53
	プリインストールされている Solaris オペレーティングシステムの設定	54
	インストールのためのワークシート	54
	プリインストールされている Solaris 10 オペレーティングシステムの設定	58
	開始前のご注意	58
	手順	58
	コンソールの出力をビデオポートにリダイレクトする (省略可)	60
	▼ シリアルキャプチャプログラムを使用してサーバーに接続する	60
	Solaris 10 のユーザーマニュアル	61
	Solaris 10 のトレーニング	61
	索引	63

はじめに

本書『Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバー設置マニュアル』(820-5218)では、サーバーのラックへの取り付け、サービスプロセッサ管理者アカウントへの接続、およびプリインストールされている Solaris™ オペレーティングシステムの設定手順を説明します。

UNIX コマンドの使用

本書は、システムのシャットダウン、システムのブート、デバイスの設定など、基本的な UNIX® コマンドに関する情報を含んでいない可能性があります。これらの情報については、次のドキュメントを参照してください。

- システムに付属のソフトウェアドキュメント
- Solaris オペレーティングシステムドキュメント (<http://docs.sun.com> で入手可能)

シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	machine-name%
C シェルスーパーユーザー	machine-name#
Bourne シェルと Korn シェル	\$
Bourne シェルと Korn シェルスーパーユーザー	#

表記上の規則

書体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上的コンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上的コンピュータ出力とは区別して示します。	% su Password:
AaBbCc123	書名、新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	『 <i>User's Guide</i> (ユーザーズガイド)』の第 6 章を参照してください。 これらはクラスオプションと呼ばれます。これを行うには、スーパーユーザーである必要があります。 ファイルを削除するには、rm <ファイル名> と入力します。

* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

関連ドキュメント

Sun Fire™ X4140、X4240、および X4440 サーバーのドキュメントセットについては、『Where to Find Sun Fire X4140, X4240, and X4440 Server Documentation (Sun Fire X4140, X4240, および X4440 サーバーのドキュメントの場所)』シートを参照してください。ドキュメントは、<http://docs.sun.com/app/docs/prod/Server.X64> にも用意されています。

一部のドキュメントについては、<http://docs.sun.com> で翻訳版が提供されています。ドロップダウンリストから言語を選択し、製品カテゴリのリンクを使って Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバーのドキュメントに移動します。Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバーのドキュメントについては、簡体字中国語、繁体字中国語、フランス語、日本語、韓国語の翻訳版が入手可能です。

英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。Sun のすべてのドキュメントについては、次の Web サイトを参照してください。

<http://docs.sun.com>

製品アップデート

ダウンロード可能な製品アップデートについては、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/download/>

サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号の記載をお願いいたします。本書『Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバー設置マニュアル』の部品番号は、820-5218-10です。

設置の準備

この章では、第 2 章と第 3 章で説明する設置手順の基本情報について説明します。

この章では、次のトピックについて説明します。

- 「必要な工具と器機」(3 ページ)
- 「オプションのコンポーネントの設置」(3 ページ)
- 「静電気放電に関する注意事項」(5 ページ)
- 「設置の概要」(5 ページ)
- 「安全上の注意」(13 ページ)

図 1-1 は Sun Fire X4140 サーバーです。図 1-2 は Sun Fire X4240 および X4440 サーバーです。

- Sun Fire X4140 サーバーは、2 つの CPU ソケットと 8 台のハードドライブを備えた 1U ラックマウントサーバーです。
- Sun Fire X4240 サーバーは、2 つの CPU ソケットと、8 台または 16 台のハードドライブを備えた 2U ラックマウントサーバーです。
- Sun Fire X4440 サーバーは、マザーボード上の 2 つの CPU ソケットに加え、追加の 2 つの CPU ソケットを備えたオプションのメザニンボードをサポートする 2U ラックマウントサーバーです。このサーバーは 8 台のハードドライブをサポートします。

図 1-1 Sun Fire X4140 サーバー

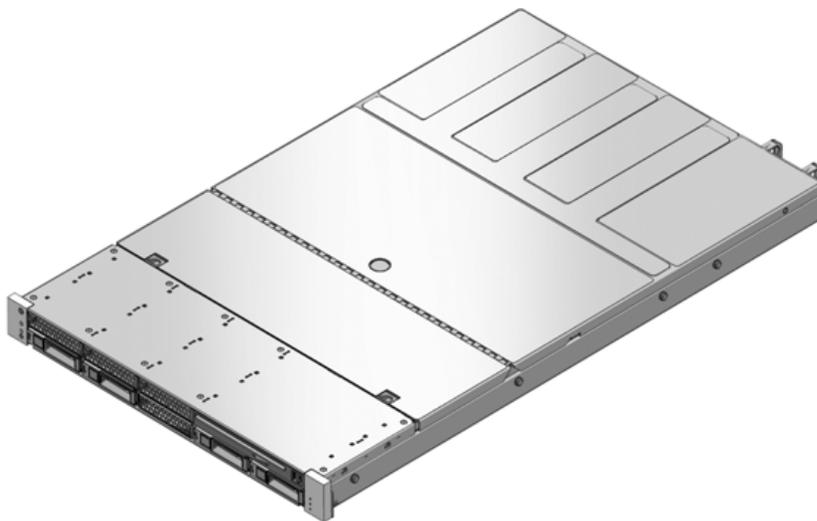


図 1-2 Sun Fire X4240 および X4440 サーバー



必要な工具と器機

システムを設置するには、次の工具が必要です。

- No. 2 プラスドライバ
- 静電気防止 (ESD) マットおよび静電気防止接地ストラップ (オプションのコンポーネントを設置する場合に必要)

また、次のいずれかのシステムコンソールデバイスも必要です。

- ASCII 端末
- Sun ワークステーション
- 端末サーバー

オプションのコンポーネントの設置

サーバーの標準のコンポーネントは、工場であらかじめ取り付けられています。ただし、増設メモリや PCI カードなどの別途注文されたオプションは別々に出荷されます。可能な場合は、サーバーをラックに取り付ける前にオプションのコンポーネントを取り付けます。

工場であらかじめ取り付けられてこないオプションを注文した場合、その設置手順については、サーバーのサービスマニュアルを参照してください。

注 - オプションのコンポーネントのリストは、予告なしに更新される可能性があります。サーバーでサポートされるコンポーネントの最新のリストについては、Web サイトを参照してください。

梱包を開く

慎重に発送箱を開けます。

開梱

すべてのサーバーコンポーネントの開梱を行います。

パッケージ内容のリスト

Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバーに同梱されている品目は次のとおりです。

- Sun Fire X4140、X4240、または X4440 サーバー
- アクセサリキット (次のドキュメントとメディアを含む)
 - ウェルカムレター
 - 『Sun Fire X4140、X4240、または X4440 サーバー設置マニュアル』 (本書)
 - 『Where to Find Sun Fire X4140, X4240, and X4440 Server Documentation (Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバーのドキュメントの場所)』 シート
 - 『Important Safety Information for Sun Hardware Systems (Sun ハードウェアシステム安全上の注意)』
 - ライセンス、安全上の注意、および登録に関する追加のドキュメント
 - ツールとドライバの CD (ドライバおよび追加のソフトウェアが収録されています)
 - DB9-RJ45 アダプタ (シリアルシステム管理ポート用)
- オプションのラックマウントキット (ボルト止めまたは工具不要)
- オプションのケーブル管理キット

オプション

電源コード、キーボード、およびマウスは、その他のアイテムとは別に梱包されています。

標準のサーバーコンポーネントは工場を組み付けられています。ただし、増設メモリや PCI-e カードなどの別途注文されたオプションは別々に出荷されます。可能な場合は、サーバーをラックに設置する前にオプションのコンポーネントを取り付けます。

静電気放電に関する注意事項

電子機器は静電気により損傷する可能性があります。サーバーの設置またはサービス時は、接地された静電気防止リストストラップ、フットストラップ、または同様の安全器具を使用して、静電気による損傷を防止します。



注意 – 静電気により損傷を受けると、システムを永久に使用できなくなったり、Sun のサービス技術者による修理が必要になる場合があります。静電気から電子コンポーネントを保護するには、コンポーネントを静電気防止マット、静電気防止バッグまたは使い捨ての静電気防止マットなどの帯電防止面に置きます。システムコンポーネントで作業するときは、シャーシの金属面に接続された静電気防止接地ストラップを着用します。

設置の概要

本設置ガイドでは、実行する手順について次の順序で説明します。

1. システムの設定情報を収集します。次のパラメータなどの詳細については、システム管理者に問い合わせてください。
 - ネットマスク
 - サービスプロセッサの IP アドレス
 - ゲートウェイ IP アドレス
2. システムと一緒に出荷された、オプションの Sun コンポーネントを取付けます。増設メモリなど、他のオプションコンポーネントを購入した場合は、サーバーをラックに取り付ける前に取り付けます。[「オプションのコンポーネントの設置」\(3 ページ\)](#)を参照してください。
3. ラックまたはキャビネット内にサーバーを取り付けて、すべてのケーブルを接続します。詳細については、[第 2 章](#)を参照してください。

注 – 本書の以降の章では、用語「ラック」とはオープンラックまたはクローズキャビネットを意味します。

4. 第 3 章の手順に従って、サービスプロセッサを設定します。

サービスプロセッサは、AC 電源をサーバーに接続すると動作可能になります。このモード (サービスプロセッサが動作可能で、サーバーの電源がオンになっていない状態) をスタンバイ電源モードといいます。

5. サーバーの電源をオンにします。第 4 章を参照してください。

注 – サーバーの電源を投入および切断する方法については、第 4 章を参照してください。ただし、オペレーティングシステムをまだインストールおよび設定していない場合は、オペレーティングシステムのインストール手順で指定されていない限り、電源をオンにしないでください。

6. オペレーティングシステムを準備します。

- 事前設定済みの Solaris OS を使用する場合は、第 5 章を参照してください。
- 別のオペレーティングシステムをインストールする場合は、次の手順に従います。
 - Linux、VMware、または Solaris オペレーティングシステムのカスタマイズバージョンをインストールする場合は、『Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド』を参照してください。
 - Windows オペレーティングシステムをインストールする場合は、『Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバー Windows オペレーティングシステムインストールガイド』を参照してください。

ケーブル接続時の注意事項 (全サーバー共通)



注意 – データケーブルの接続が完了し、サーバーをシリアル端末または端末エミュレータ (PC またはワークステーション) に接続するまで、電源ケーブルを電源に接続しないでください。

- 最小限度のケーブル接続:
 - 少なくとも 1 つのシステムオンボード Ethernet ネットワーク接続 (NET ポート)
 - シリアル管理ポート (SER MGT ポート)
 - ネットワーク管理ポート (NET MGT ポート)
 - 2 つのシステム電源用電源ケーブル
- ネットワーク管理ポート: ILOM サービスプロセッサで使用する 2 つのネットワーク管理ポートがあります。

- シリアル管理ポート (ラベル: SER MGT) は、常時使用できます (RJ-45 ケーブルを使用)。これは、サービスプロセッサへのデフォルトの接続です。
- ネットワーク管理ポート (ラベル: NET MGT) はサービスプロセッサへのオプションの接続です。このポートは、サービスプロセッサのネットワーク設定を指定していない場合は使用できません (シリアル管理ポート経由)。第 3 章を参照してください。ネットワーク管理ポートは、10/100 BASE-T 接続に RJ-45 ケーブルを使用します。このポートは、Gigabit ネットワークへの接続をサポートしていません。
- **Ethernet** ポートには、NET0、NET1、NET2、NET3 のラベルが付けられています。Ethernet インタフェースは、10 Mbps、100 Mbps、1000 Mbps で動作します。Ethernet ポートの転送速度を表 1-1 に示します。

表 1-1 Ethernet 接続の転送速度

接続の種類	IEEE の用語	転送速度
Ethernet	10BASE-T	10 Mbps
Fast Ethernet	100BASE-TX	100 Mbps
Gigabit Ethernet	1000BASE-T	1000 Mbps

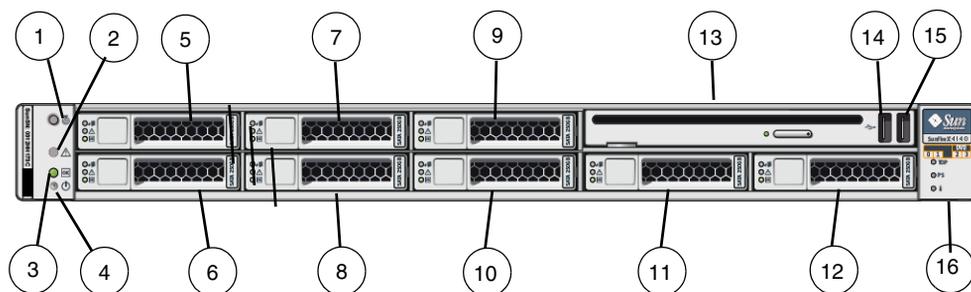
- **VGA ビデオポート:** 9 ピンのビデオケーブルを使用して VGA ビデオデバイスに接続します。
- **USB ポート:** USB ポートはホットプラグに対応しています。つまり、OS を実行中に、システムの動作に影響を与えることなく USB ケーブルと周辺装置を接続したり、接続を外したりできます。
 - システム OK プロンプトが表示されている場合やシステムを完全にブートしていない場合、USB ホットプラグ操作はサポートされません。
 - 126 台のデバイスを 2 つの USB コントローラのそれぞれに接続できます。システムあたり合計 256 台の USB デバイスを使用できます。
- **AC 電源ケーブル:** データケーブルの接続が完了し、サーバーをシリアル端末または端末エミュレータ (PC またはワークステーション) に接続するまで、電源ケーブルを電源に接続しないでください。AC 電源ケーブルを電源に接続すると、サーバーはスタンバイ電源モードに移行し、ILOM サービスプロセッサは初期化されます。サーバーを端末、PC、またはワークステーションに接続していない場合、システムメッセージが 60 秒後に失われる可能性があります。

各部の説明

次のセクションでは、サーバーモジュールの前面と背面の各部を示します。LED、ポート、およびハードドライブの場所も示します。

Sun Fire X4140 サーバーの前面パネルの各部の説明

図 1-3 Sun Fire X4140 サーバーの前面パネルの各部の説明



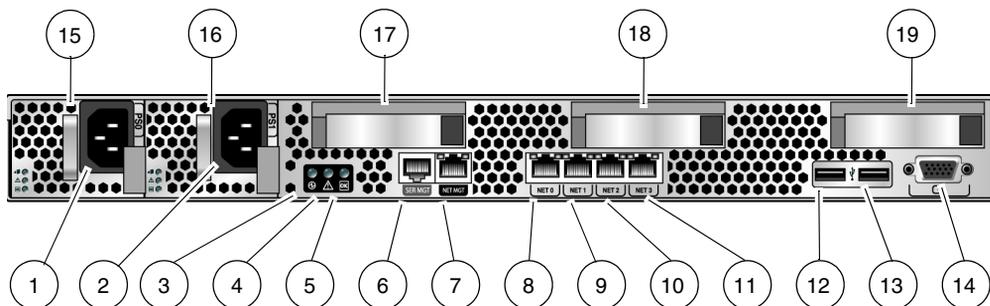
各部の名称

1	ロケータ LED/ロケータボタン: 白色	9	HDD 4
2	保守要求 LED: オレンジ色	10	HDD 5
3	電源/OK LED: 緑色	11	HDD 6
4	電源ボタン	12	HDD 7
5	HDD 0	13	DVD ドライブ
6	HDD 1	14	USB 2
7	HDD 2	15	USB 3
8	HDD 3	16	障害 LED: オレンジ色
			上面開放
			電源 (PS) 故障
			過熱警告、ファン故障

Sun Fire X4140 サーバーの背面パネルの各部の説明

Sun Fire X4140 サーバーのポートの場所については、[図 1-4](#) および [図 1-3](#) を参照してください。

図 1-4 Sun Fire X4140 サーバーの背面パネルの各部の説明



各部の名称

1 電源 0 (LED 付き): 電源 OK: 緑色 電源故障: オレンジ色 AC OK: 緑色	7 Net Mgt ポート
2 電源 1 (LED 付き): 電源 OK: 緑色 電源故障: オレンジ色 AC OK: 緑色	8 NET0
3 ロケータ LED ボタン	9 NET1
4 保守要求 LED	10 NET2
5 電源 OK LED	11 NET3
6 Ser Mgt ポート	12 USB ポート 0
	13 USB ポート 1
	14 VGA ビデオポート
	15 PS 0
	16 PS1
	17 PCIe 0
	18 PCIe 1

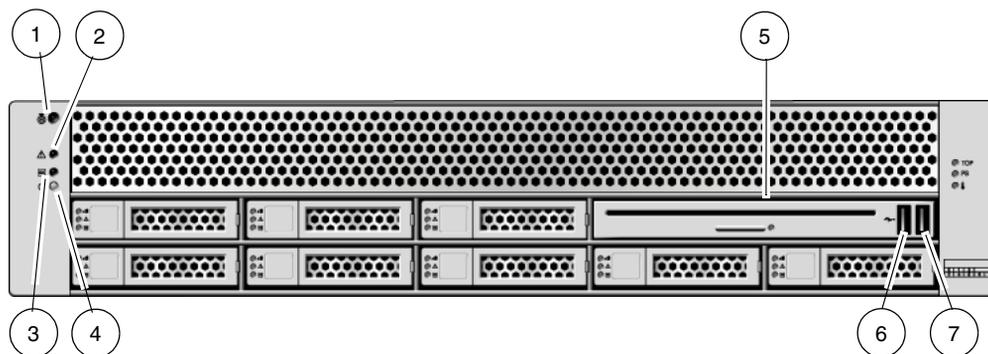
注 – USB ポート 2 および 3 は前面パネルにあります ([図 1-3](#))。

Sun Fire X4240 および X4440 サーバーの前面パネルの各部の説明

図 1-5 は、Sun Fire X4240 および X4440 サーバーの前面パネルの各部を示しています。

注 - 図 1-5 は、8 台のハードドライブを搭載しているモデルを示しています。このサーバーには、16 台のハードドライブを搭載しているモデルもあります。ハードドライブの場所と番号については、図 1-7 を参照してください。

図 1-5 Sun Fire X4240 および X4440 サーバーの前面パネルの各部の説明



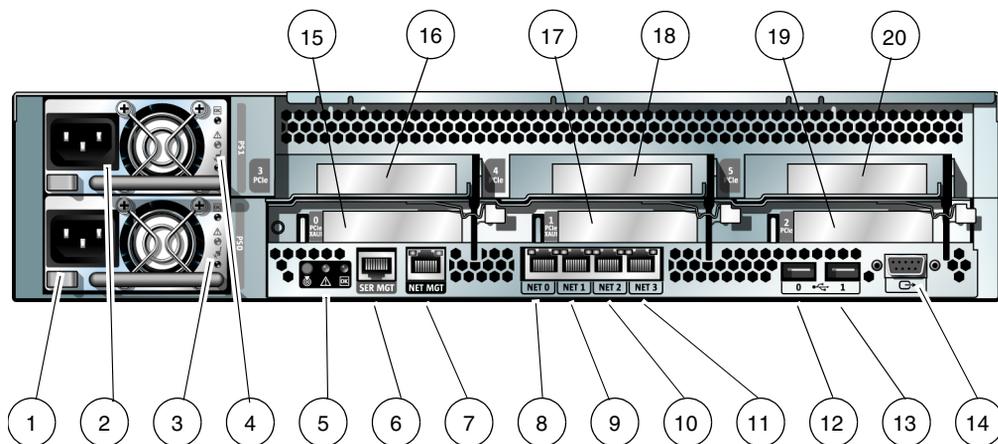
各部の名称

1	ロケータ LED/ロケータボタン: 白色	5	DVD ドライブ
2	保守要求 LED: オレンジ色	6	USB ポート 2
3	電源/OK LED: 緑色	7	USB ポート 3
4	電源ボタン		

Sun Fire X4240 および X4440 サーバーの背面パネルの各部の説明

図 1-6 は、Sun Fire X4240 および X4440 サーバーの背面パネルの各部を示しています。

図 1-6 Sun Fire X4240 および X4440 サーバーの背面パネルの各部の説明



各部の名称

1	電源 0	7	Net Mgt ポート
2	電源 1	8	NET0
3	電源 0 状態 LED 電源 OK: 緑色 電源故障: オレンジ色 AC OK: 緑色	9	NET1
4	電源 1 状態 LED 電源 OK: 緑色 電源故障: オレンジ色 AC OK: 緑色	10	NET2
5	システム状態 LED 電源: 緑色 保守要求 LED: オレンジ色 AC OK LED: 緑色	11	NET3
6	Ser Mgt ポート	12	USB ポート 0
		13	USB ポート 1
		14	VGA ビデオポート
		15	PCIe 0
		16	PCIe 3
		17	PCIe 1
		18	PCIe 4
		19	PCIe 2
		20	PCIe 5

USB ポート 2 および 3 は前面パネルにあります (図 1-5)。

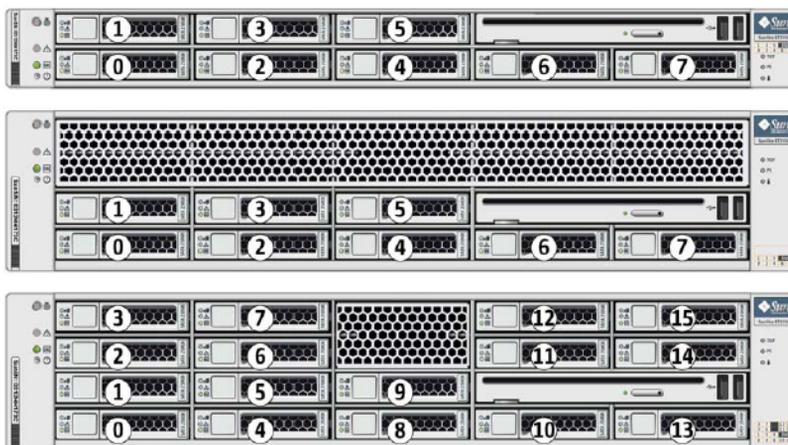
ディスクドライブの場所

Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバーには、異なるディスクドライブ設定が用意されています。

- Sun Fire X4140 サーバーには、8 台のディスクドライブが搭載されています。
- Sun Fire X4240 および X4440 サーバーには、8 または 16 台のディスクドライブが搭載されたモデルがあります。

図 1-7 は、ハードドライブの場所と番号を示しています。

図 1-7 ハードドライブの場所



安全上の注意



注意 – 転倒防止バー付きのラックの場合は、設置を開始する前に転倒防止バーを適切な位置に設置します。



注意 – サーバーの重量は約 18 Kg (40 lb) です。この章の手順に従って、システムを持ち上げてラックエンクロージャ内に取り付けるには、2 人の作業者が必要です。



注意 – 2 人で作業しているときは、各手順ごとに互いに意思の疎通を図りながら安全に作業を進めてください。

サーバーのラックへの取り付け

この章では、ラックマウントキットのレール構成部品を使用してサーバーをラック内に取り付ける方法について説明します。

注 – ラックマウントキットに手順書が含まれている場合は、この章の指示ではなく、手順書に従ってください。取り付け作業が完了したら、第 3 章に進んでサービスプロセッサを設定します。

この章では、次の項目について説明します。

- 「互換性の確認」(16 ページ)
- 「スライドレールの取り付け」(17 ページ)
- 「ケーブル管理アームの取り付け」(25 ページ)
- 「スライドレールと CMA の動作の確認」(31 ページ)
- 「Sun Fire X4140 サーバーへのサーバーケーブルの接続」(32 ページ)

注 – 本書では、用語「ラック」とはオープンラックまたはクローズキャビネットを意味します。

サーバー設置プロセスの概要

オプションのスライドレールとケーブル管理アーム (CMA) を使用してサーバーを 4 ポストラック内に取り付けるには、次に示す順序で作業を実行します。

1. 「互換性の確認」(16 ページ)
2. 「スライドレールの取り付け」(17 ページ)
3. 「サーバーへの固定部品の取り付け」(18 ページ)

4. 「ケーブル管理アームの取り付け」(25 ページ)
5. 「スライドレールと CMA の動作の確認」(31 ページ)
6. 「Sun Fire X4140 サーバーへのサーバーケーブルの接続」(32 ページ)

工具不要レール構成部品とボルト止めレール構成部品

ラックキットには、工具不要 (エクスプレス) レールキット、およびボルト止めレールキットの 2 種類があります。

- 工具不要レールキットでは、レール構成部品は工具を使用しないで、ラックのポストにスナップ方式で取り付けます。
- ボルト止めラックキットでは、コネクタを使用してレール構成部品をラックのポストに固定する必要があります。レールキットに付属の各種コネクタから適切な金具を選択します。

互換性の確認

使用するラックがオプションのスライドレールおよびケーブル管理アーム (CMA) と互換性があることを確認します。オプションのスライドレールは、次の仕様を満たす様々な標準ラックに対応しています。

表 2-1 ラックの互換性

アイテム	要件
構造	前後左右で固定する形式の 4 ポストラック。2 ポストのラックにはマウントできません。
ラックの横方向の開口部とユニットの縦方向のピッチ	ANSI/EIA 310-D-1992 または IEC 60927 規格に適合すること。
前側取り付け面と後ろ側取り付け面の距離	610 ~ 915 mm (24 ~ 36 インチ)
前側取り付け面の前面の隙間	キャビネット前面ドアまでの距離が 25.4 mm (1 インチ) 以上あること。
前側取り付け面の背後の隙間	ケーブル管理アームを使用する場合は、キャビネット後面ドアまで 800 mm (31.5 インチ) 以上の間隔があること。ケーブル管理アームを使用しない場合は 700 mm (27.5 インチ) 以上であること。

表 2-1 ラックの互換性 (続き)

アイテム	要件
前側取り付け面と後ろ側取り付け面の幅	構造サポートとケーブルスルーの距離が 456 mm (18 インチ) 以上であること。
Sun Fire X4140 サーバーの寸法	長さ: (PSU ハンドルを含まない長さ): 714 mm (28.125 インチ) 幅: (耳部を含まない幅): 426 mm (16.75 インチ) 高さ: 1U 44 mm (1.746 インチ)
Sun Fire X4240 および X4440 サーバーの寸法	長さ: (PSU ハンドルを含まない長さ): 714 mm (28.125 インチ) 幅: (耳部を含まない幅): 426 mm (16.75 インチ) 高さ: 2U 88 mm (3.49 インチ)



注意 – サーバーは必ず下から先にラックへ取り付けてください。上から順に取り付けるとラックが不安定になり、転倒する危険が生じます。転倒防止バーを装備しているラックであれば、サーバー取り付け時に活用してください。



注意 – ラック内の温度がサーバーの最大周辺温度を超えないようにしてください。ラック内に取り付けられているすべての装置の全体的な空気循環の要件を考慮して、装置が指定の温度範囲内で動作するようにしてください。

スライドレールの取り付け

スライドレールからの固定部品の分離

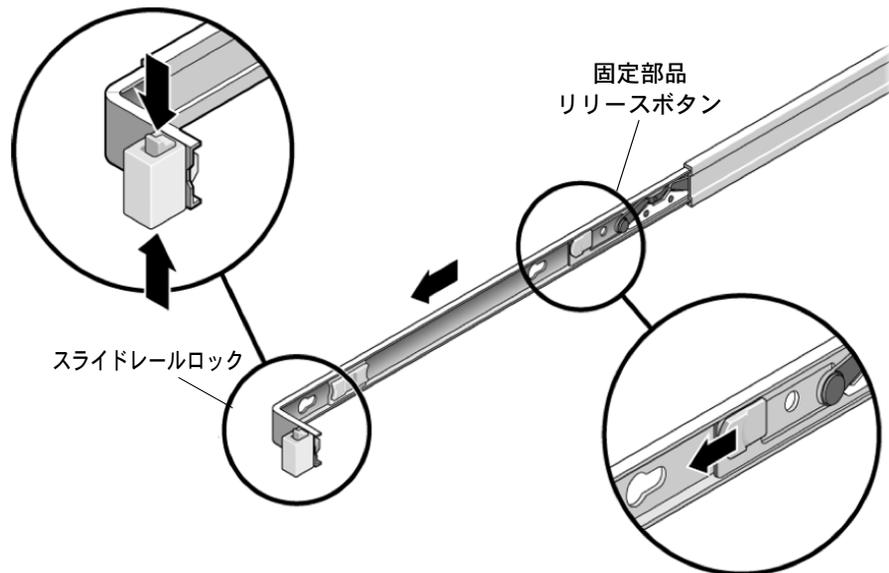
一部のスライドレールキットは、固定部品がスライドレール内に入った状態で出荷されます。固定部品がスライドレールから分離されている場合は、この手順は省略してください。

スライドレールから固定部品を分離するには、次の手順に従います。

1. スライドレールを開梱します。

2. スライドレール構成部品の前面にあるスライドレールロックを確認します (図 2-1 を参照)。
3. ロックの上部と下部のタブを押しながら、固定部品がストップに達するまでスライドレールから引き出します。
4. 固定部品リリースボタンを固定部品の前側に押しながら (図 2-1 を参照)、固定部品をスライドレール構成部品から外します。
5. すべてのスライドレール構成部品で上記の手順を繰り返します。

図 2-1 設置前のスライドレールの分解

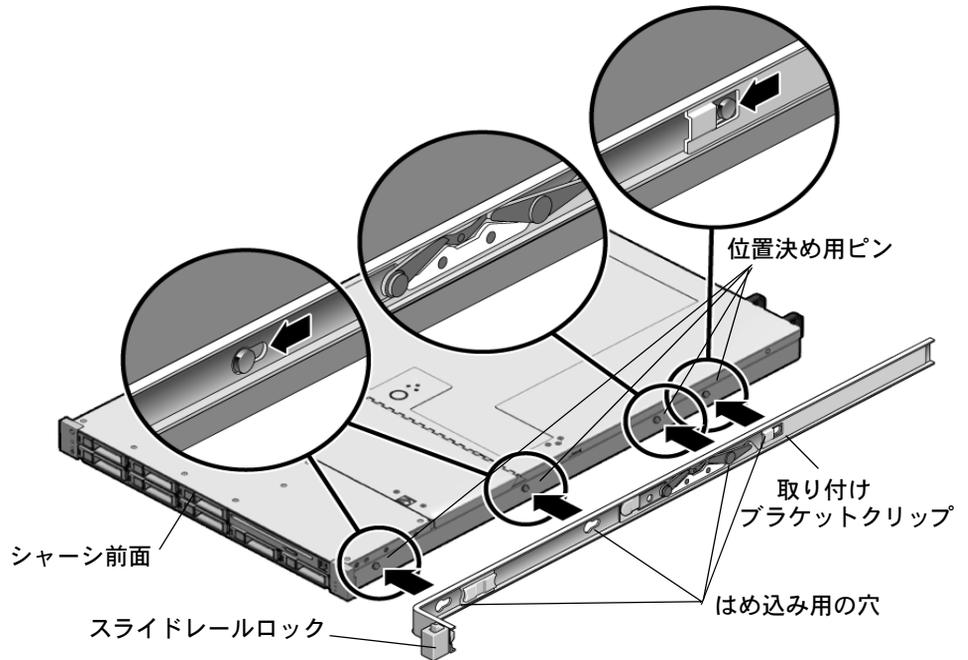


サーバーへの固定部品の取り付け

固定部品をサーバーの側面に取り付けるには、次の手順に従います。

1. スライドレールロックがサーバーの前面に来て、固定部品のはめ込み用の穴がシャーシの側面にある位置決め用ピンと整列するように、シャーシに対して固定部品を位置決めします。

図 2-2 固定部品とサーバーシャーシとの整列 (例として Sun Fire X4140 を表示)



2. 固定部品をサーバーに固定します。
 - a. 位置決め用ピンの頭を固定部品のはめ込み用の穴と整列させます。図 2-2 を参照してください。
 - b. 固定部品がサーバーの側面と面一になり、位置決め用ピンが固定部品の穴にかみ合うように、固定部品とピンを位置決めします。
 - c. ブラケットのクリップが「カチッ」と音がして固定されるまで、シャーシの前側に固定部品をスライドさせます。
3. 背面の位置決め用ピンがしっかりとサーバーに固定されていることを確認します。(図 2-2 を参照)。
4. 手順 1 から手順 3 を繰り返してサーバーのもう片方の側面にブラケットを取り付けます。

工具不要スライドレール構成部品の取り付け

工具不要スライドレール構成部品をラックに取り付けるには、次の手順に従います。

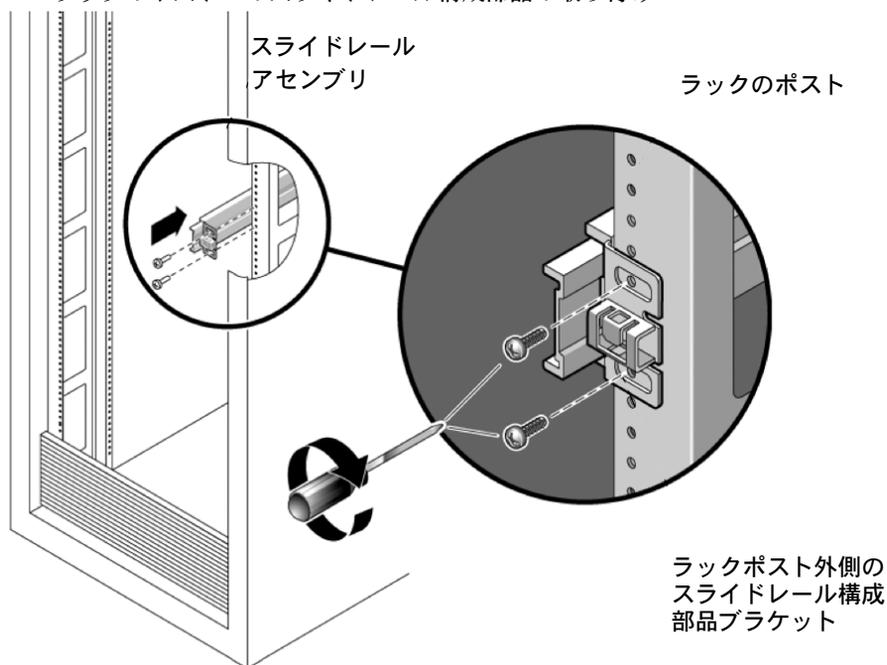
1. スライドレール構成部品の各端部のブラケットが前面と背面のラックのポストの外側にくるようにスライドレール構成部品を位置決めします (図 2-3 を参照)。
2. スライドレール構成部品をラックに向かって押し込みます。
工具不要のブラケットがラックのポストに固定されます (「カチッ」という音がします)。

ボルト止めスライドレール構成部品の取り付け

ボルト止めスライドレール構成部品をラックに取り付けるには、次の手順に従います。

1. スライドレールキットに付属の各種コネクタから、ラックのポストに合う金具を選択します。
 - ラックのポストに取り付け用のネジ穴がある場合は、ネジがメートルネジかインチネジかを確認し、適切な取り付けネジを選択します。
 - ラックのポストに取り付け用のネジ穴がない場合は、ケージナットを使用します。
ケージナットを使用する場合は、ケージナットが「カチッ」と音がして固定されるまでラックの外側から穴に押し込みます。ケージナットを固定したら、これを取り付け用のネジ穴として使用します。
2. スライドレール構成部品の各端部のブラケットが前面と背面のラックのポストの外側にくるようにスライドレール構成部品を位置決めします (図 2-3 を参照)。
3. スライドレール構成部品をラックのポストにゆるく取り付けます。ネジは完全に締め付けしないでください。

図 2-3 ラックのポストへのスライドレール構成部品の取り付け

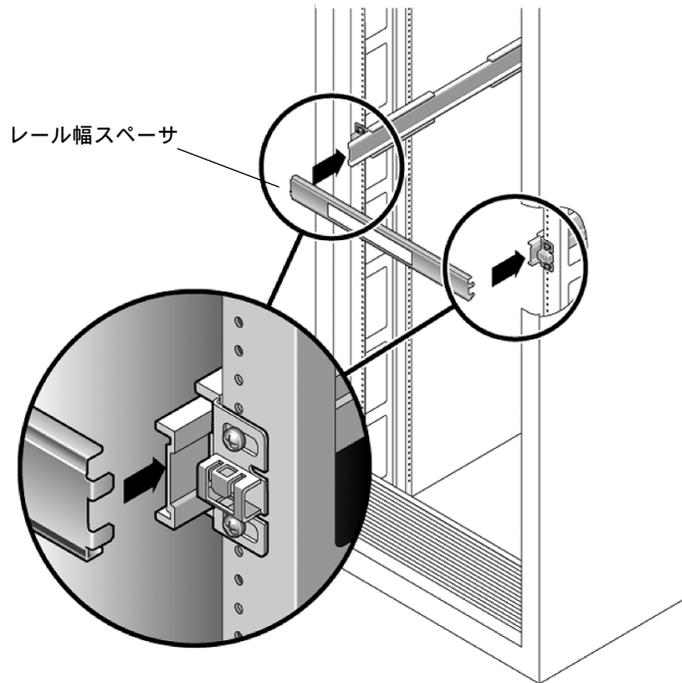


4. 手順 1 ～手順 3 を繰り返して、残りのスライドレール構成部品を取り付けます。
5. ラックの前面からレール幅スペーサを使用して、レールを正しい幅に設定します (図 2-4 を参照)。

注 – レール幅スペーサ (図 2-4 参照) は、ボルト止めレールキットに含まれています。レール幅スペーサを使用してレールを正しい幅に設定し、スペーサを取り外します。

- a. スライドレール内側のスロットにレール幅スペーサを挿入します。
- b. ネジを締め付けて、レールをラックのポストにしっかりと固定します。
- c. レール幅スペーサを取り外します。
- d. レールがラックにしっかりと取り付けられていることを確認します。

図 2-4 システムの前面のレール幅の設定



6. ラックの後部で、[手順 5](#) を繰り返します。
ラックの後部では、レール幅スペーサ用のスロットはレールの内側の端部から数インチ離れた位置にあります。

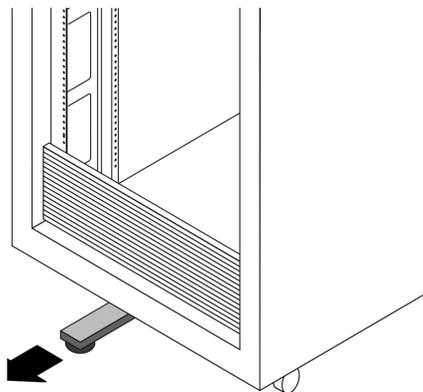
7. ラックに転倒防止用の脚がある場合は、ラックの下部から引き出します (図 2-5 を参照)。

転倒防止用の脚は、一般にボルトで固定されないラックが必要です。



注意 – 転倒防止用の脚が必要なラックで脚を使用していない場合、ラックが転倒する可能性があります。

図 2-5 転倒防止用の脚の延長



スライドレール構成部品へのサーバーの設置

固定部品を取り付けたサーバーシャーシを、ラックに取り付けられているスライドレール構成部品に設置するには、ここで説明する手順に従います。



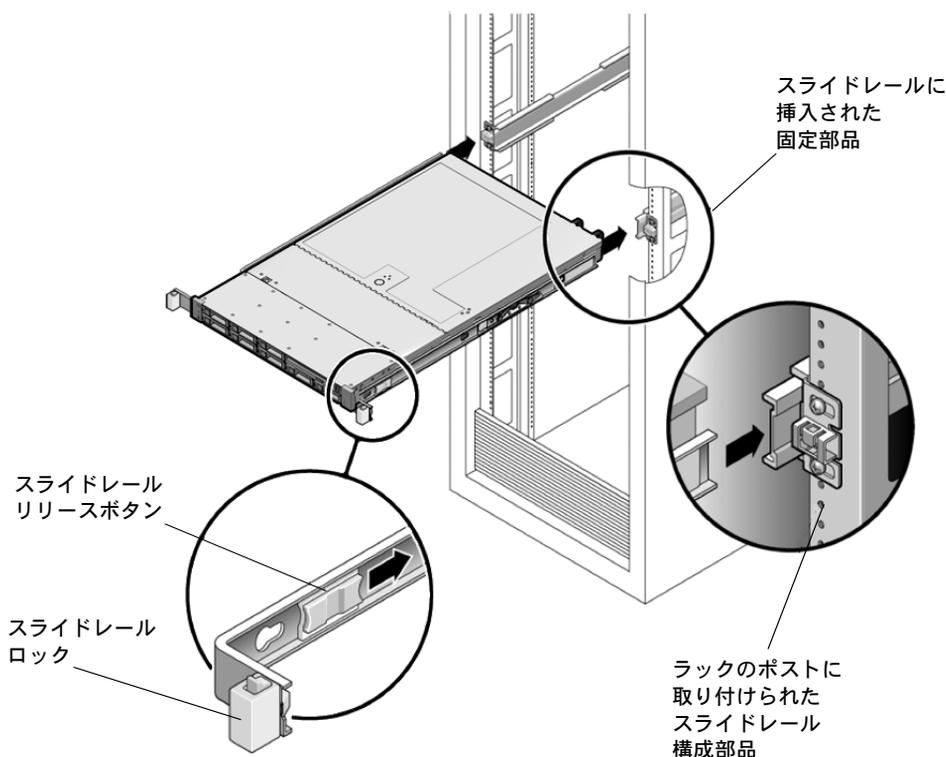
注意 – サーバーは重いので、この手順では少なくとも 2 名の作業者がが必要です。この手順を 1 人で実行すると、機器が損傷したり、けがをする可能性があります。



注意 – サーバーは必ず下から先にラックへ取り付けてください。上から順に取り付けるとラックが不安定になり、転倒する危険が生じます。

1. スライドレールをラックのスライドレール構成部品に可能な限り奥まで押し込みます。
2. 固定部品の後端が、機器ラックに取り付けられているスライドレール構成部品と整列するようにサーバーを持ち上げます (図 2-6 を参照)。
3. 固定部品付けたサーバーをスライドレールに挿入し、固定部品がスライドレールのストップに接触するまでサーバーをラック内に慎重に押し込みます (約 30 cm (12 インチ))。
固定部品付きのサーバーを慎重に押し込みます。サーバーは所定の位置で停止します。

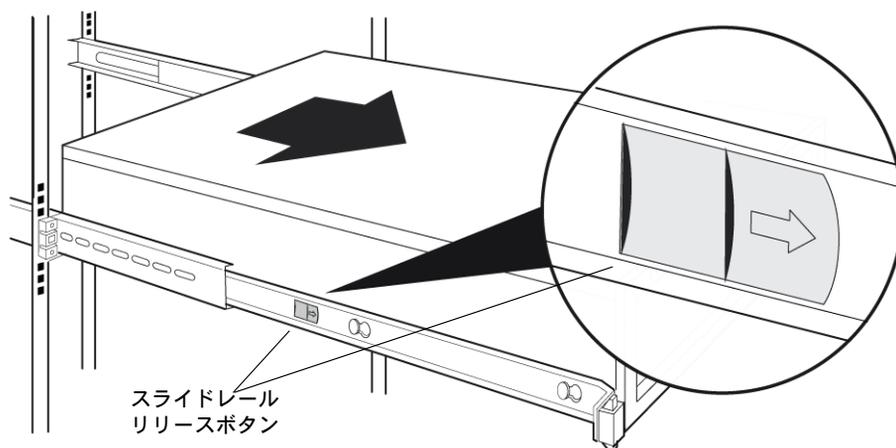
図 2-6 固定部品付きのサーバーのスライドレールへの挿入 (例として Sun Fire X4140 を表示)



4. 両方のスライドレールリリースボタンを同時にラックの後ろ側に押しながら、サーバーをラック内に押し込みます (図 2-6 を参照)。
5. サーバーの前面がラックのポストと面一になるまで押し続けます。
スライドレールロックがかかり、「カチッ」と音がしてサーバーが所定の位置に固定されます。

6. スライドレールが正しく動作することを確認します。図 2-7 を参照してください。
- ラックからサーバーを引き出しながら、スライドレールリリースボタンを押します。
サーバーは、ラックの約半分の位置までスライドして停止します。
 - ラックからサーバーをさらに引き出しながら、灰色のスライドレールリリースタブを押します。
サーバーは、スライドレールが完全に引き伸ばされるまで、ラックの外側に引き出すことができます。

図 2-7 スライドレールリリースタブの場所



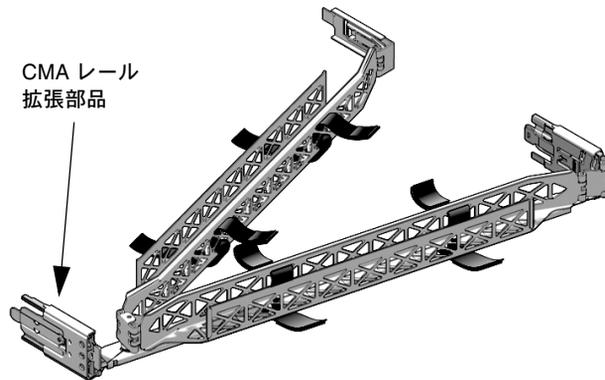
注意 – サーバーがラックにしっかりと取り付けられていること、およびスライドレールロックが固定部品にかみ合っていることを確認してから次の手順に進みます。

- スライドレールの機能を確認したら、スライドロックがかみ合うまで、サーバーをラック内に完全にスライドさせます。

ケーブル管理アームの取り付け

オプションのケーブル管理アーム (CMA) を取り付けするには、ここで説明する手順に従います。図 2-8 は CMA を示します。

図 2-8 ケーブル管理アーム (CMA)

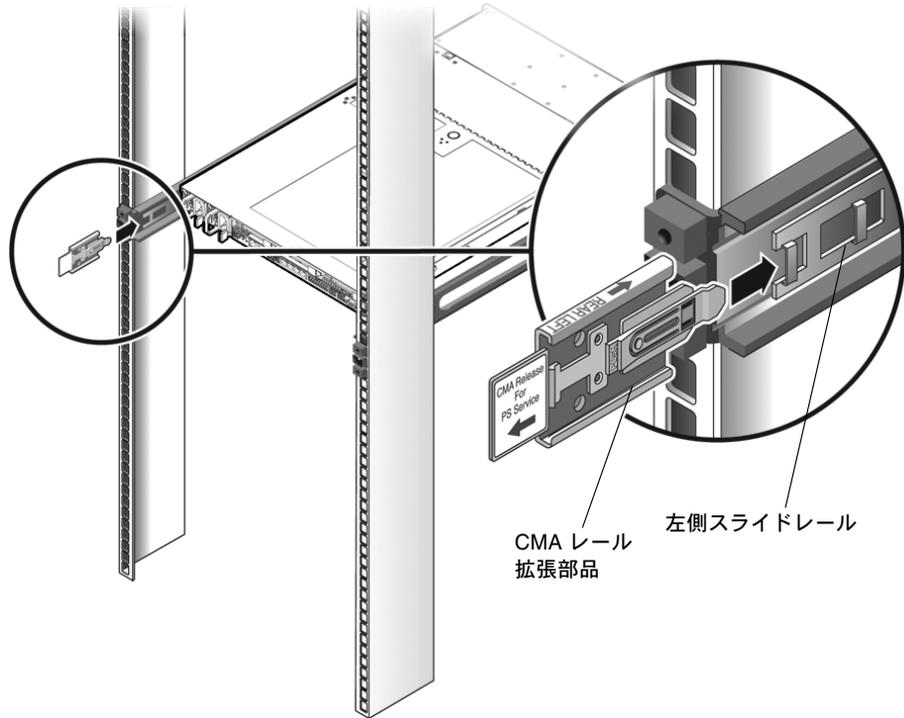


1. CMA の部品を開梱します。
2. CMA を機器ラックの背面に移動し、サーバーの背後に十分な作業スペースがあることを確認します。

注 – この手順の「左」と「右」は、機器ラックの背面を見たときの左と右を示します。

3. CMA レール拡張部品が CMA アームにテープで固定されている場合は、テープを取り外します。
4. CMA レール拡張部品を、「カチッ」と音がして固定されるまで、左側スライドレールに差し込みます (図 2-9 を参照)。

図 2-9 左側スライドレール後部への CMA レール拡張部品の挿入

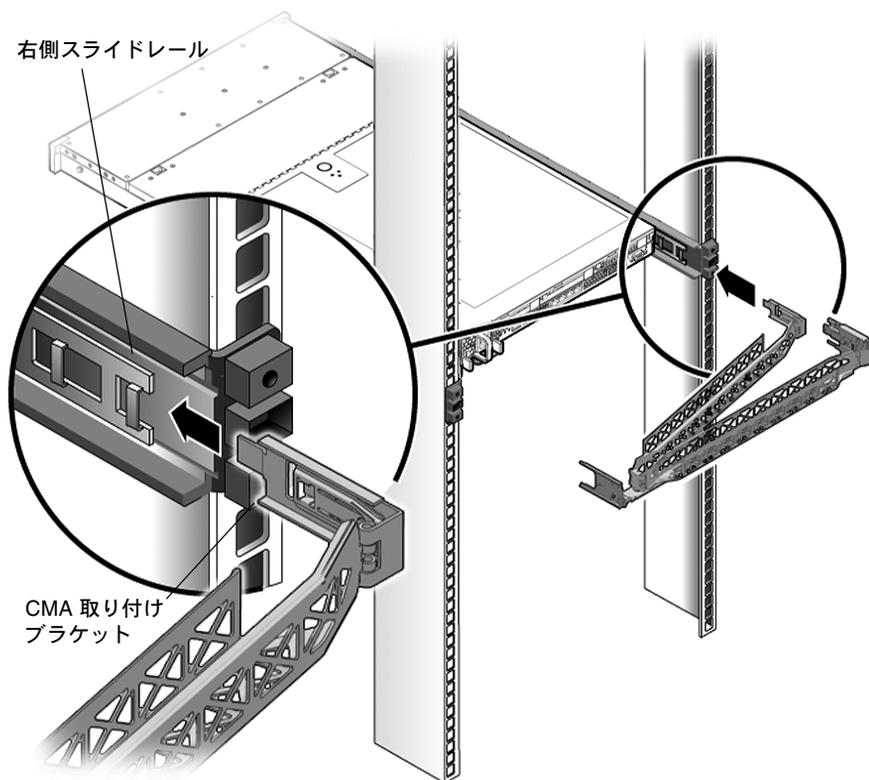


5. CMA レール拡張部品がスライドレールにかみ合っていることを確認します (図 2-9 を参照)。

注 – 残りの設置作業は、CMA を支えながら行ってください。アームは、3つの取り付け箇所すべてに固定されるまで、自重がかかるように吊り下げたりしないでください。

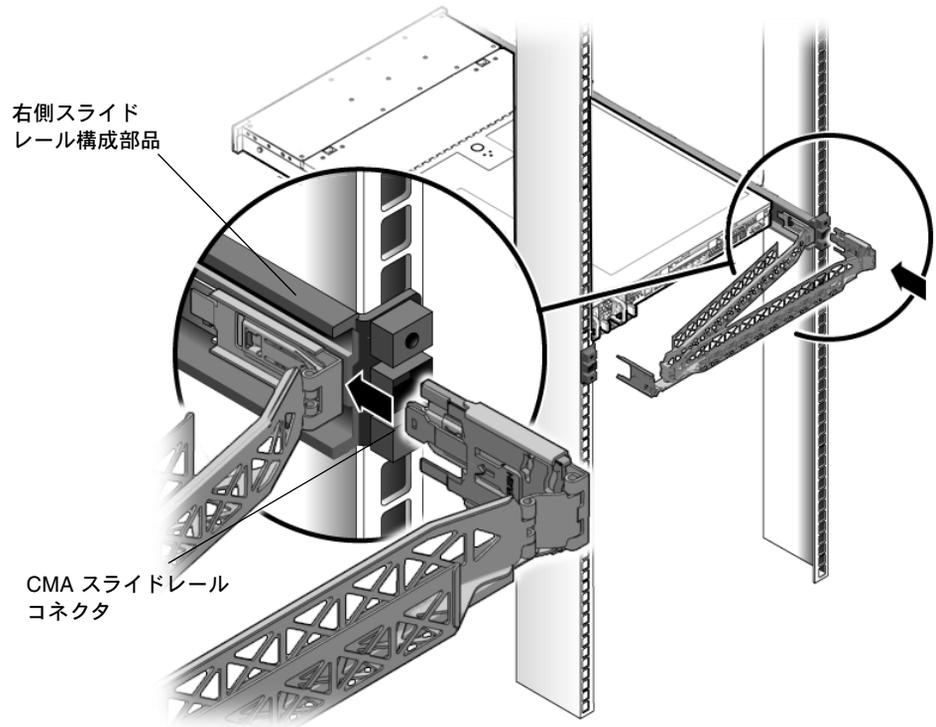
6. CMA の固定部品コネクタを、「カチッ」と音がして固定されるまで、右側のスライドレールに差し込みます (図 2-10 を参照)。

図 2-10 右側スライドレール後部への CMA 固定部品の挿入



7. 右側の CMA スライドレールコネクタを、「カチッ」と音がして固定されるまで、右側スライドレール構成部品に差し込みます (図 2-11 を参照)。

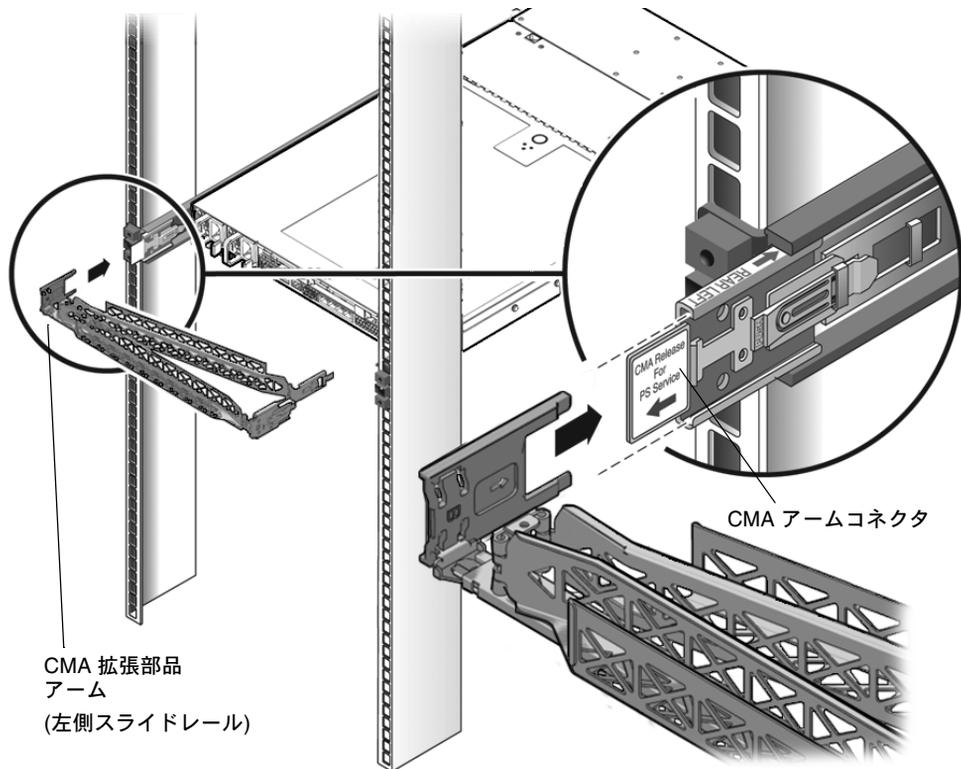
図 2-11 右側スライドレール構成部品後部への CMA スライドレールコネクタの挿入



8. 左側の CMA スライドレールコネクタを、「カチッ」と音がして固定されるまで、左側スライドレール構成部品に差し込みます (図 2-12 を参照)。

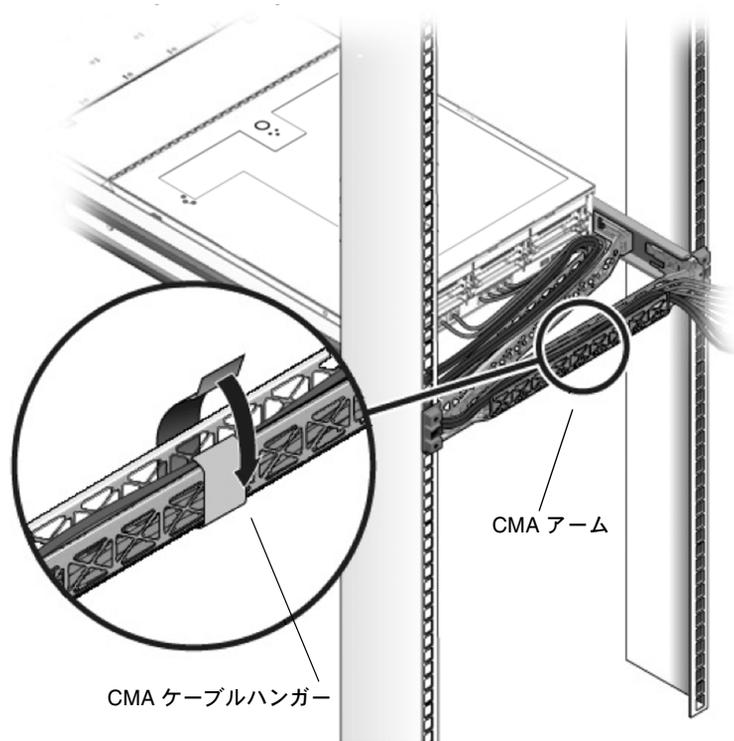
注 - CMA を閉じた状態では、シャーシの背面の左にある電源コネクタは CMA の後ろに隠れます。コネクタにアクセスするには、CMA アームコネクタをリリースし、CMA を邪魔にならない位置まで動かします。

図 2-12 レール拡張コネクタへの CMA アームの接続



9. 必要に応じて、サーバーまで経路を設定してケーブルを取り付けます。
10. フックとループストラップを CMA に取り付け、所定の位置に押し込んでケーブルを固定します (図 2-13 を参照)。
CMA の背面側に 3 つのハンガーを均等に配置し、サーバー側の面にも 3 つのハンガーを配置することをお勧めします。

図 2-13 CMA ケーブルストラップの設置



11. 右外側のラッチを取り付けます。
12. サポートラッチを左側の CMA 拡張部品に取り付けます。

スライドレールと CMA の動作の確認

スライドレールと CMA が正しく動作していることを確認するには、ここで説明している手順に従います。

注 - この手順は、2 人の作業員で実行することをお勧めします。1 人がサーバーをラックの前後に動かし、もう 1 人がケーブルと CMA を監視します。

1. スライドレールがストップに達するまで、ラックからサーバーをゆっくりと引き出します。

2. 取り付けられているケーブルの引っかかりやよじれを点検します。
3. CMA がスライドレールからいっぱいまで伸びることを確認します。
4. 次の手順に従って、サーバーをラック内に押し込みます。

サーバーを完全に引き出したときに、2 対のスライドレールストップをリリースしてサーバーをラックに戻します。

 - a. 最初の対のストップは、各スライドレールの内側 (サーバーの背面パネルのすぐ後ろ) にある緑色のリリース機構をスライドさせてリリースします。両側を同時に押ししてサーバーをラックに向けてスライドさせます。

サーバーは約 46 cm (18 インチ) スライドして停止します。
ケーブルと CMA が引っかからずに格納されることを確認します。
 - b. 2 番目の対のストップは、各固定部品の前面近くにあるスライドレールリリースボタンです。図 2-6 を参照してください。両方のスライドレールリリースボタンを同時に押すか引いて、両方のスライドレールロックがかみ合うまでサーバーを完全にラック内に押し込みます。
 - c. 必要に応じて、ケーブルストラップと CMA を調整します。

Sun Fire X4140 サーバーへのサーバーケーブルの接続

次のセクションの説明に従って、ケーブルを接続します。

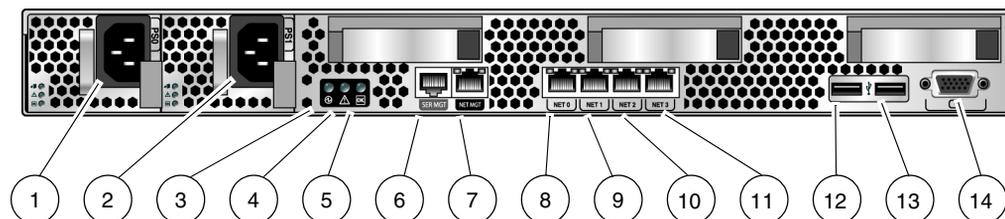
- 「Ethernet ネットワークケーブル」(33 ページ)
- 「シリアル管理ポート」(33 ページ)
- 「SP ネットワーク管理ポート」(34 ページ)
- 「AC 電源ケーブル」(35 ページ)
- 「VGA ビデオポート」(35 ページ)
- 「USB ポート」(35 ページ)

注 – サーバーへの接続を完了したら、ケーブルが曲がったり損傷を受けたりせず、サーバーをラックの内外へ滑らかにスライドできることを確認します。「[スライドレールと CMA の動作の確認](#)」(31 ページ) を参照してください。

コネクタの位置

図 2-14 は、サーバーの背面パネルのコネクタを示しています。

図 2-14 Sun Fire X4140 の背面パネルの各部の説明



各部の名称

1	電源 0	8	NET0
2	電源 1	9	NET1
3	ロケータ LED ボタン	10	NET2
4	保守要求 LED	11	NET3
5	電源 OK LED	12	USB ポート 0
6	Ser Mgt ポート	13	USB ポート 1
7	Net Mgt ポート	14	ビデオ VGA ポート

Ethernet ネットワークケーブル

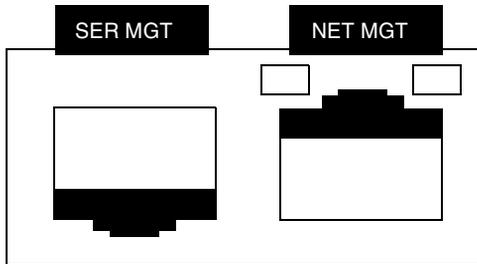
Sun Fire X4140 サーバーには、4 つの RJ-45 Gigabit Ethernet コネクタがあり、それぞれ NET0、NET1、NET2、NET3 というマークが付けられています (図 2-14)。

1. カテゴリ 5 ケーブルをネットワークスイッチまたはハブからシャーシ背面の Ethernet ポート 0 (NET0) に接続します。
2. 必要に応じて、カテゴリ 5 ケーブルをネットワークスイッチまたはハブから残りの Ethernet ポート (NET1、NET2、NET3) に接続します。

シリアル管理ポート

シリアル管理ポートには、SER MGT というマークが付けられています (図 2-15)。このポートを使用して、サービスプロセッサへのシリアル接続を確立します。

図 2-15 シリアルおよびネットワークポート – シャーシの背面



注 – サーバー管理には、シリアル管理ポートのみを使用します。これは、サービスプロセッサと端末またはコンピュータ間のデフォルトの接続です。



注意 – このポートにはモデムを接続しないでください。

- カテゴリ 5 ケーブルを SER MGT シリアル管理ポートから端末デバイスに接続します。

DB-9 または DB-25 ケーブルを接続する場合は、アダプタを使用してコネクタごとにクロスオーバを実装します。

デフォルトのシリアルプロトコルは、9600 ボー、パリティなし、ハードウェア/ソフトウェアフロー制御なしです。

SP ネットワーク管理ポート

SP ネットワーク管理ポートには、NET MGT というマークが付けられています (図 2-15)。このポートを使用して、サービスプロセッサへのネットワーク接続を確立します。

注 – ネットワーク管理ポートは、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) を介してネットワーク設定を取得するように、また Solaris Secure Shell (SSH) を使用する接続が可能になるようにデフォルトで設定されています。必要に応じてネットワークのこれらの設定を変更します。手順については、第 3 章を参照してください。

- カテゴリ 5 ケーブルを NET MGT ネットワーク管理ポートからネットワークスイッチまたはハブに接続します。

AC 電源ケーブル

- AC 電源ケーブルを電源 0 および電源 1 (図 2-14 参照)に接続します。



注意 – システムの電源はまだ投入しないでください。

AC 電源をサーバーに接続すると、サーバーは自動的にスタンバイ電源モードに移行します。サービスプロセッサが起動しますが、サーバーの電源はオフのままです。

前面パネルの電源/OK LED が点滅します。

注 – CMA を取り付けると、AC 電源コネクタは CMA の後ろに隠れます。電源コネクタにアクセスするには、CMA の左側の CMA アームコネクタをリリースし、CMA を邪魔にならない位置に動かします。図 2-12 を参照してください。

システムの電源の投入と切断手順については第 4 章を参照してください。

VGA ビデオポート

ビデオポートコネクタには、DB-9 コネクタを使用します。このポートは背面パネルの右下隅にあります (図 2-14)。

USB ポート

4 つの Universal Serial Bus (USB) ポートが用意されています。USB ポート 0 および 1 はシャーシの背面にあります (図 2-14)。ポート 2 および 3 はシャーシ前面にあります。

Sun Fire X4240 および X4440 サーバーへのサーバーケーブルの接続

- 「Ethernet ネットワークケーブル」 (37 ページ)
- 「シリアル管理ポート」 (38 ページ)
- 「SP ネットワーク管理ポート」 (38 ページ)
- 「AC 電源ケーブル」 (39 ページ)

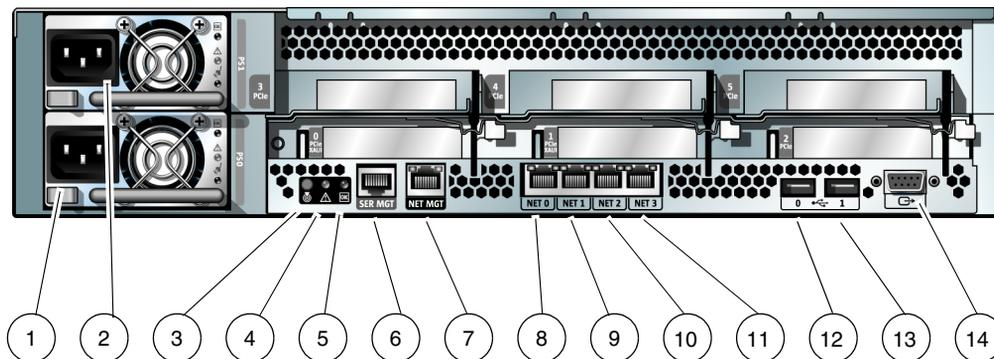
- 「VGA ビデオポート」 (39 ページ)
- 「USB ポート」 (39 ページ)

注 – サーバーへの接続を完了したら、ケーブルが曲がったり損傷を受けたりせず、サーバーをラックの内外へ滑らかにスライドできることを確認します。「[スライドレールと CMA の動作の確認](#)」 (31 ページ) を参照してください。

コネクタの位置

図 2-16 は、Sun Fire X4240 および X4440 サーバーの背面のコネクタと電源を示しています。

図 2-16 Sun Fire X4240 および X4440 の背面パネルの各部の説明

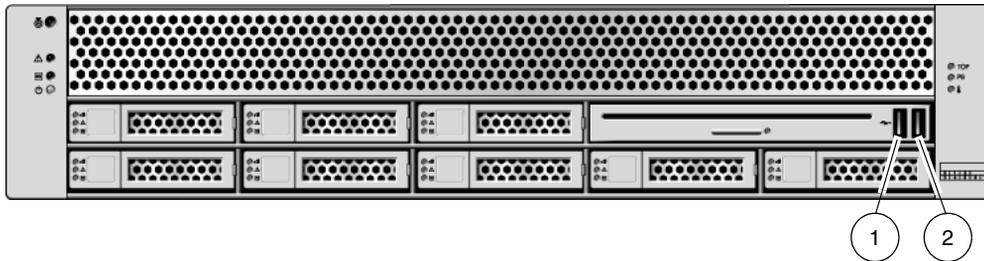


各部の名称

1	電源 0	8	NET0
2	電源 1	9	NET1
3	ロケータ LED ボタン	10	NET2
4	保守要求 LED	11	NET3
5	電源 OK LED	12	USB ポート 0
6	Ser Mgt ポート	13	USB ポート 1
7	Net Mgt ポート	14	VGA ビデオポート

USB ポート 2 および 3 は前面パネルにあります (図 2-17)。

図 2-17 Sun Fire X4240 および X4440 の前面パネルの USB ポート



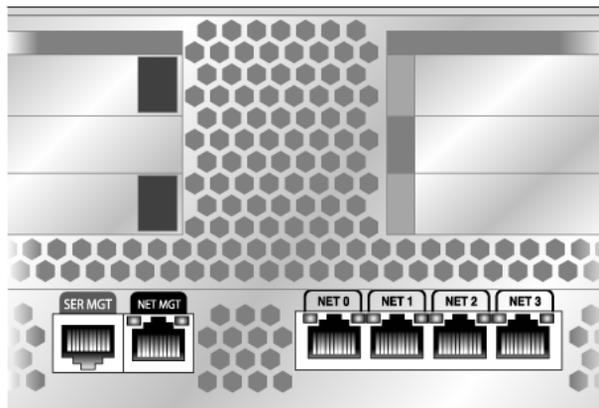
各部の名称

-
- 1 USB ポート 2
 - 2 USB ポート 3
-

Ethernet ネットワークケーブル

Sun Fire X4240 および X4440 サーバーには、4 つの RJ-45 Gigabit Ethernet ネットワークコネクタが用意されています。これらのコネクタには、NET0、NET1、NET2、NET3 のラベルが付けられています (図 2-18)。

図 2-18 Ethernet ネットワーク接続



1. カテゴリ 5 ケーブルをネットワークスイッチまたはハブからシャーシ背面の Ethernet ポート 0 (NET0) に接続します。
2. 必要に応じて、カテゴリ 5 ケーブルをネットワークスイッチまたはハブから残りの Ethernet ポート (NET1、NET2、NET3) に接続します。

シリアル管理ポート

シリアル管理ポートには、SER MGT というマークが付けられています (図 2-18)。これは、シャーシ背面の最も左側にある RJ-45 ポートです。

このポートを使用して、サービスプロセッサへのシリアル接続を確立します。

注 – サーバー管理には、シリアル管理ポートのみを使用します。これは、サービスプロセッサと端末またはコンピュータ間のデフォルトの接続です。



注意 – このポートにはモデムを接続しないでください。

- カテゴリ 5 ケーブルをシリアル管理ポートから端末デバイスに接続します。

DB-9 または DB-25 ケーブルを接続する場合は、アダプタを使用してコネクタごとにクロスオーバを実装します。

SP ネットワーク管理ポート

SP ネットワーク管理ポートには、NET MGT というマークが付けられています (図 2-18)。このポートを使用して、サービスプロセッサへのネットワーク接続を確立します。これは、背面の USB ポートの上にある RJ-45 ポートです。

- カテゴリ 5 ケーブルをネットワークスイッチまたはハブからネットワーク管理ポートに接続します。

注 – このポートは、シリアル管理ポートを介してサービスプロセッサのネットワーク設定を設定するまで使用できません (詳細は第 3 章を参照)。

注 – ネットワーク管理ポートは、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) を介してネットワーク設定を取得するように、また Solaris Secure Shell (SSH) を使用する接続が可能になるようにデフォルトで設定されています。必要に応じてネットワークのこれらの設定を変更します。手順については、第 3 章を参照してください。

AC 電源ケーブル

- AC 電源ケーブルを電源 0 および電源 1 に接続します。図 2-18 を参照してください。



注意 – システムの電源はまだ投入しないでください。

AC 電源をサーバーに接続すると、サーバーは自動的にスタンバイ電源モードに移行します。サービスプロセッサが起動しますが、サーバーの電源はオフのままです。

前面パネルの電源/OK LED が点滅します。

注 – CMA を取り付けると、AC 電源コネクタは CMA の後ろに隠れます。電源コネクタにアクセスするには、CMA の左側の CMA アームコネクタをリリースし、CMA を邪魔にならない位置に動かします。図 2-12 を参照してください。

システムの電源の投入と切断手順については第 4 章を参照してください。

VGA ビデオポート

ビデオポートコネクタには、DB-9 コネクタを使用します。このポートは背面パネルの右下隅にあります (図 2-16)。

USB ポート

4 つの Universal Serial Bus (USB) ポートが用意されています。USB ポート 0 および 1 はシャーシの背面にあります (図 2-16)。ポート 2 および 3 はシャーシの前面にあります (図 2-17)。

サービスプロセッサへの接続と設定

この章では、サーバーの Integrated Lights Out Manager (ILOM) サービスプロセッサ (SP) への接続およびネットワークの初期設定の方法について説明します。

- [「概要」 \(42 ページ\)](#)
- [「CLI の使用」 \(42 ページ\)](#)
- [「ILOM Web GUI の使用」 \(45 ページ\)](#)

概要

ILOM を使用すると、システムコンソールに接続できます。また、ネットワークの管理と設定を行うことができます。ILOM は、システムの電源がオフでも AC 電源が接続されている限り使用できます。

この章では、サービスプロセッサに接続してサービスプロセッサが正常に機能していることを確認する方法、およびネットワークを設定する方法について説明します。サービスプロセッサを設定して、DHCP または静的 IP アドレスを使用できます。静的 IP アドレスを使用するように設定するには、ネットワーク設定アドレスを入力する必要があります。

サービスプロセッサについての詳細は、『*Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 User's Guide* (Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド)』(820-1188) を参照してください。

ILOM には、コマンドラインインタフェース (CLI) と Web GUI の 2 つのインタフェースがあります。

- CLI には、SER MGT ポート経由でシリアルケーブルを使用してアクセスするか、NET MGT ポート経由で Secure SSH 接続を使用してアクセスできます。
- Web GUI には、NET MGT ポートを経由する Ethernet 接続により Web ブラウザでアクセスできます。

接続を図 2-14 と 図 2-16 に示します。

ネットワークの設定には、いずれの方法も使用できます。ただし、SSH または Web GUI を使用するには、サービスプロセッサの IP アドレスを知っている必要があります。

いずれかの方法を選択して作業を進めます。

- 「CLI の使用」(42 ページ)
- 「ILOM Web GUI の使用」(45 ページ)

CLI の使用

ここでは、ILOM へのシリアル接続を確立し、ネットワークの初期設定を実行する手順を説明します。

この手順は、ハードウェアのセットアップが既に完了し、スタンバイ電源をサーバーに供給済みであることを前提としています。

- ILOM の IP アドレスが不明な場合は、シリアル接続を使用します。

- ILOM の IP アドレスがわかっている場合は、シリアル接続または SSH を使用できます。

▼ CLI を使用した ILOM への接続

1. ご使用の端末、ラップトップ、または端末サーバーが稼働していることを確認します。
2. 端末デバイス、あるいはラップトップまたは PC 上で実行している端末エミュレーションソフトウェアを次のように設定します。
 - 8N1: データビット 8、パリティなし、ストップビット 1
 - 9600 ボー
 - ハードウェアのフローコントロール無効 (CTS/RTS)
 - ソフトウェアのフローコントロール無効 (XON/XOFF)
3. サーバーの背面パネルにある RJ-45 SERIAL MGT ポートと端末デバイスをシリアルケーブルで接続します。図 1-4 または図 1-6 を参照してください。
4. 端末デバイスで Enter キーを押して、端末デバイスと ILOM との接続を確立します。

SP にログインプロンプト、**login** が表示されます。

5. ILOM にログインします。
 - a. デフォルトのユーザー名、**root** を入力します。
 - b. デフォルトのパスワード、**changeme** を入力します。正常にログインすると、SP に次のデフォルトのコマンドプロンプトが表示されます。
->
これで、SP のコマンドラインインタフェース (CLI) を使用できるようになります。

6. 次の手順に従って、サーバーのネットワーク設定を指定します。
 - a. CLI のネットワーク設定画面に移動します。次のように入力します。

```
/SP/network
```

- b. 次のコマンドを入力して、ネットワーク設定を指定します。
 - 静的 IP アドレスを設定するには、次のように入力します。

```
set pendingipaddress=xxx.xxx.xx.xx  
set pendingipnetmask=yyy.yyy.yyy.y  
set pendingipgateway=zzz.zzz.zz.zzz  
set pendingipdiscovery=static  
set commitpending=true
```

ここで、*xxx.xxx.xx.xx*、*yyy.yyy.yyy.y* および *zzz.zzz.zz.zzz* は、ILOM およびネットワーク設定の IP アドレス、ネットマスク、およびゲートウェイです。

- 動的 IP アドレスを設定するには、次のように入力します。

```
set pendingipdiscovery=dhcp
set commitpending=true
```

7. シリアルコンソールを起動します (省略可能)。

- シリアルコンソールを起動するには、次のように入力します。

```
cd /SP/console
start
```

- ILOM CLI に戻るには、**Esc** (キーシーケンス) を入力します。

8. 完了したら、**exit** と入力します。

ILOM が終了します。

9. ILOM を設定したら、[第 5 章](#)の手順に進みます。

▼ SSH を使用した ILOM への接続

この手順では、次を前提としています。

- ILOM と同じサブネットにアクセスできるコマンドラインデバイスに接続している。
- ILOM の IP アドレスがわかっている。

1. 次のコマンドを入力します。

```
ssh -l root@ipaddress
```

ここで、*ipaddress* は ILOM IP アドレスです。

2. プロンプトが表示されたら、デフォルトのパスワード、**changeme** を入力します。正常にログインすると、SP に次のデフォルトのコマンドプロンプトが表示されます。

->

これで、SP のコマンドラインインタフェース (CLI) を使用できるようになります。

3. 次の手順に従って、サーバーのネットワーク設定を指定します。

- a. CLI のネットワーク設定画面に移動します。次のように入力します。

```
/SP/network
```

- b. 次のコマンドを入力して、ネットワーク設定を指定します。

- 静的 IP アドレスを設定するには、次のように入力します。

```
set pendingipaddress=xxx.xxx.xx.xx
set pendingipnetmask=yyy.yyy.yyy.y
set pendingipgateway=zzz.zzz.zz.zzz
```

```
set pendingipdiscovery=static
```

```
set commitpending=true
```

ここで、*xxx.xxx.xx.xx*、*yyy.yyy.yyy.y* および *zzz.zzz.zz.zzz* は、ILOM およびネットワーク設定の IP アドレス、ネットマスク、およびゲートウェイです。

- 動的 IP アドレスを設定するには、次のように入力します。

```
set pendingipdiscovery=dhcp
```

```
set commitpending=true
```

4. シリアルコンソールを起動します (省略可能)。

- シリアルコンソールを起動するには、次のように入力します。

```
cd /SP/console
```

```
start
```

- ILOM CLI に戻るには、**Esc** (キーシーケンス) を入力します。

5. 完了したら、**exit** と入力します。

ILOM が終了します。

6. ILOM を設定したら、[第 5 章](#)の手順に進みます。

ILOM Web GUI の使用

グラフィカルユーザーインターフェース (GUI) など、ILOM の全機能にアクセスするには、LAN を Ethernet ポートに接続し、ILOM Web GUI にアクセスする必要があります。

注 – この手順は、ハードウェアのセットアップが既に完了し、スタンバイ電源をサーバーに供給済みであることを前提としています。また、ILOM の IP アドレスがわかっていることも前提としています。

1. DHCP を使用する場合は、システム管理者に問い合わせ、DHCP サーバーが新しい MAC (media access control) アドレスを受け入れるように設定されていることを確認します。
2. Ethernet ケーブルをサーバーの RJ-45 NET MGT Ethernet ポートに接続します。[図 1-4](#) または [図 1-6](#) を参照してください。

注 – ILOM が静的 IP アドレスを使用していない場合、MAC アドレスの ID を使用して DHCPDISCOVER パケットをブロードキャストします。LAN 上の DHCP サーバーは IP アドレス やその他の情報を含む DHCP OFFER パケットを返します。これにより、ILOM は、DHCP サーバーによって割り当てられた IP アドレスの「リース」を管理するようになります。

3. ILOM IP アドレスが不明な場合は、「[CLI の使用](#)」(42 ページ) の手順に従って確認します。
4. Web ブラウザウィンドウで、ILOM IP アドレスを入力します。
ログインページが表示されます。
5. デフォルトのユーザー名 **root** とパスワード **changeme** を入力します。
ILOM Web GUI ページが表示されます。
6. ネットワーク設定を指定するには、「**Configuration (構成)**」タブを選択し、「**Network (ネットワーク)**」タブを選択します。
現在のネットワーク設定が表示されます。図 3-1 を参照してください。
7. 次の手順に従って、IP アドレスを選択および設定します。
 - a. DHCP を使用するには、「**Obtain an IP Address Automatically (use DHCP) (IP アドレスを自動的に取得する (DHCP を使用))**」の横にあるラジオボタンを選択します。
 - b. 静的 IP アドレスを使用するには、次の手順に従います。
 - i. 「**Use the Following IP Address (次の IP アドレスを使用する)**」の横にあるラジオボタンを選択します。
 - ii. 該当するフィールドに、IP アドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイ IP アドレスを入力します。

図 3-1 Integrated Lights Out Manager のネットワーク設定ページ

ABOUT REFRESH LOG OUT

Role (User): Administrator (root) SP Hostname : SUNSP00144F8E2ED7

Sun™ Integrated Lights Out Manager

Sun™ Microsystems, Inc.

System Information	System Monitoring	Configuration	User Management	Remote Control	Maintenance
System Management Access	Alert Management	Network	Serial Port	Clock Settings	Syslog SMTP Client

Network Settings

View the MAC address and configure network settings for the Service Processor from this page. DHCP is the default mode, but you can manually configure the Netmask, Gateway, and IP address. Select the radio button next to the appropriate mode, then enter settings as needed.

MAC Address: 00:14:4F:8E:2E:D7

Obtain an IP Address Automatically (use DHCP)

Use the Following IP Address

IP Address:

Subnet Mask:

Gateway:

Save

8. 完了したら、「Save (保存)」をクリックします。

9. 第 5 章の手順に進みます。

システムの設定方法の詳細については、『*Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 User's Guide* (Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド)』(820-1188)を参照してください。

サーバーの電源投入と電源切断

この章では、サーバーの電源の投入方法と切断方法について説明します。

- 「システムの準備」(49 ページ)
- 「スタンバイ電源の供給」(50 ページ)
- 「サーバーの電源の投入」(50 ページ)
- 「サーバーの電源の切断」(51 ページ)

システムの準備

AC 電源がサーバーに接続されていることを確認します (第 2 章を参照)。



注意 - 1 つのブランチ回路に最大で 2 つの電源コードを接続できます。残りの電源コードは 2 番目のブランチ回路に接続する必要があります。



注意 - サーバーを初めて接続する場合は、第 5 章の手順で指示されるまでシステムの電源を投入しないでください。



注意 - 機器が損傷を受ける可能性があります。必ず、ファン、コンポーネントヒートシンク、エアバッフル、カバーをすべて取り付けて、サーバーを操作してください。適切な冷却メカニズムがない状態で操作すると、サーバーのコンポーネントに重大な損傷が生じることがあります。

スタンバイ電源の供給

AC 電源をサーバーに接続すると、サーバーは自動的にスタンバイ電源モードに移行します。サービスプロセッサが起動しますが、サーバーの電源はオフのままです。

前面パネルの電源 /OK LED が点滅します。

サーバーを初めて起動する場合は、[第 3 章](#)の手順に従ってサービスプロセッサを設定します。

サーバーの電源の投入



注意 – オペレーティングシステムをまだインストールしていない場合は、システムの電源を投入しないでください。

サーバーの電源を投入する前にオペレーティングシステムをインストールするには、次のいずれかを参照してください。

- プリインストールされている Solaris オペレーティングシステムを設定するには、[第 5 章](#)を参照してください。
- 別のオペレーティングシステムをインストールするには、次のいずれかを参照してください。
 - Windows オペレーティングシステムをインストールする場合は、『Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバー Windows オペレーティングシステムインストールガイド』を参照してください。
 - その他のサポートされるオペレーティングシステムをインストールするには、『Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド』を参照してください。

▼ サーバーの電源を投入する

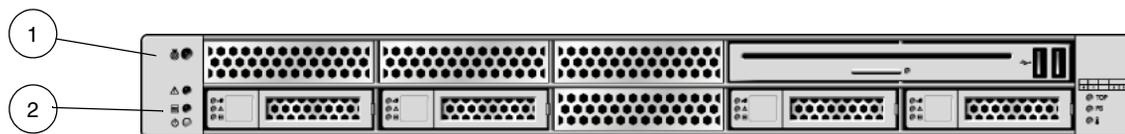
1. 電源コードが接続され、スタンバイ電源がオンの状態であることを確認します。
スタンバイ電源モードでは、前面パネルの電源/OK LED が点滅します。

注 – CMA を取り付けると、AC 電源コネクタは CMA の後ろに隠れます。電源コネクタにアクセスするには、CMA の左側の CMA アームコネクタをリリースし、CMA を邪魔にならない位置に動かします。[図 2-12](#) を参照してください。

2. サーバーの前面パネルにある、へこんだ電源ボタンをペンや他の先の尖ったもので押します。図 4-1 を参照してください。

主電源がサーバーに完全に供給されると、電源ボタンのとりにある電源 /OK LED が点灯し続けます。

図 4-1 前面パネル (例として Sun Fire X4140 を表示)



各部の名称

- | | |
|---|-----------|
| 1 | 電源ボタン |
| 2 | 電源/OK LED |

サーバーの電源の切断

- 主電源モードからサーバーの電源を切断するには、次の 2 つの方法のいずれかに従います。
 - 適切な順序でのシャットダウン: サーバーの前面パネルにある電源ボタンをペンや他の先の尖ったもので押します。ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) が有効な OS では、これで適切な順序での OS シャットダウンが実行されます。ACPI が有効な OS を稼働していないサーバーは、即座にスタンバイ電源モードにシャットダウンされます。
 - 緊急シャットダウン: 主電源が遮断され、サーバーがスタンバイ電源モードに移行するまで、電源ボタンを 4 秒間押し続けます。

主電源がオフになると、前面パネルにある電源 /OK LED が点滅し、サーバーがスタンバイ電源モードにあることを示します。

注 – サーバーの電源を完全に切断するには、サーバーの背面パネルから AC 電源コードを取り外します。CMA を取り付けると、AC 電源コネクタは CMA の後ろに隠れます。電源コネクタにアクセスするには、CMA の左側の CMA アームコネクタをリリースし、CMA を邪魔にならない位置に動かします。図 2-12 を参照してください。



注意 – システムの電源が投入されている間に、AC 電源コードの接続を外さないでください。

オペレーティングシステムソフトウェアのセットアップ

第 3 章の手順に従って、ILOM のネットワーク設定を指定した後、プリインストールされている Solaris™ 10 オペレーティングシステム (OS) を設定したり、Linux または Windows プラットフォームオペレーティングシステムをインストールできます。

使用する OS に応じて、下記の適切な参照先を利用してください。

- プリインストールされている Solaris 10 OS を使用する場合は、「[プリインストールされている Solaris オペレーティングシステムの設定](#)」(54 ページ) を参照してください。
- サポートされている Linux OS と必要なドライバをインストールするには、『Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバーオペレーティングシステムインストールガイド』を参照してください。このドキュメントには、メディアから Solaris オペレーティングシステムをインストールする手順も含まれています。
- サポートされている Windows OS と必要なドライバをインストールするには、『Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバー Windows オペレーティングシステムインストールガイド』を参照してください。
- サーバーに固有の OS に関する追加の考慮事項については、『Sun Fire X4140、X4240、および X4440 サーバーご使用にあたって』を参照してください。

プリインストールされている Solaris オペレーティングシステムの設定

このセクションでは、サーバーにプリインストールされている Solaris 10 オペレーティングシステム (OS) の設定手順について説明します。

注 – SPARC® システムとは異なり、サーバーの電源を投入してもプリインストールされている Solaris 10 のイメージの出力はモニターに表示されません。プリインストールされているイメージの出力は、モニターではなくシリアルコンソールに送信されます。

プリインストールされている Solaris OS を設定するには、次の手順に従います。

1. [表 5-1](#) のワークシートを使用して、必要な設定情報を収集します。
2. OS を設定します。

インストールのためのワークシート

[表 5-1](#) のワークシートを使用して、プリインストールされている Solaris 10 OS の設定に必要な情報を収集します。システムのアプリケーションに適用される情報のみを収集します。

表 5-1 インストールのためのワークシート

インストールのためのワークシート		説明または例	回答: アスタリスク (*) が付いている 値はデフォルトの値です。
言語		Solaris 10 ソフトウェアに使用できる言語をリストから選択します。	英語*
地域		サポート対象の地域のリストから自分の地域を選択します。	英語 (C - 7 ビット ASCII)*
端末		使用可能な端末タイプのリストから、使用している端末のタイプを選択します。	
ネットワーク接続		システムはネットワークに接続されていますか？	<ul style="list-style-type: none"> • ネットワークに接続されている • ネットワークに接続されていない*
DHCP		ネットワークインタフェースの設定に、動的ホスト構成プロトコル (DHCP) を使用できますか？	<ul style="list-style-type: none"> • はい • いいえ*
DHCP を使用していない場合、ネットワークアドレスを記録します。	IP アドレス	DHCP を使用していない場合、システムに IP アドレスを割り当てます。 例: 129.200.9.1	
	サブネット	DHCP を使用していない場合、システムはサブネットの一部ですか？ システムがサブネットの一部である場合、サブネットのネットマスクを入力します。 例: 255.255.0.0	255.255.0.0*
	IPv6	このマシンで IPv6 を有効にしますか？	<ul style="list-style-type: none"> • はい • いいえ*
ホスト名		システムに指定したホスト名	
Kerberos		このマシンで Kerberos セキュリティを設定しますか？ セキュリティを設定する場合、次の情報を収集します。 デフォルトレルム: 管理サーバー: 第 1 KDC: (省略可) その他の KDC:	<ul style="list-style-type: none"> • はい • いいえ*

表 5-1 インストールのためのワークシート (続き)

インストールのためのワークシート		説明または例	回答: アスタリスク (*) が付いている 値はデフォルトの値です。
ネームサービス: システムでネームサービスを使用する場合、次の情報を指定します。	ネームサービス	このシステムで使うネームサービスを入力します。	<ul style="list-style-type: none"> • NIS+ • NIS • DNS • LDAP • なし*
	ドメインネーム	システムが含まれているドメインの名前を入力します。	
	NIS+ と NIS	自分でネームサーバーを指定しますか？それともインストールプログラムによって自動的に指定しますか？	<ul style="list-style-type: none"> • IP アドレスを指定 • 自動的に指定*
	DNS	<p>DNS サーバーの IP アドレスを入力します。少なくとも 1 個は必ず入力してください (最高 3 個)。</p> <p>DNS の問い合わせ時に検索するドメインのリストも入力できます。</p> <p style="text-align: right;">検索するドメイン: 検索するドメイン: 検索するドメイン:</p>	
	LDAP	<p>LDAP プロファイルについて次の情報を入力します。</p> <p style="text-align: right;">プロファイル名: プロファイルサーバー:</p> <p>LDAP プロファイルにプロキシ認証レベルを指定する場合、次の情報を収集します。</p> <p style="text-align: right;">プロキシバインド識別名: プロキシバインドパスワード:</p>	

表 5-1 インストールのためのワークシート (続き)

インストールのためのワークシート	説明または例	回答: アスタリスク (*) が付いている 値はデフォルトの値です。
デフォルトルート	<p>自分でデフォルトルート IP アドレスを指定しますか？ それとも Solaris インストールプログラムによって自動的に指定しますか？</p> <p>デフォルトルートは、2 つの物理ネットワーク間でトラフィックを転送するブリッジの役目を果たします。IP アドレスは、ネットワーク上の各ホストを識別する固有の数字です。</p> <p>次の選択肢があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IP アドレスを指定します。指定された IP アドレスを使用して、<code>/etc/defaultrouter</code> ファイルが作成されます。システムのリブート時に、指定した IP アドレスがデフォルトのルートになります。 • Solaris インストールプログラムを使用して、IP アドレスを検出します。ただし、ICMP ルーター発見プロトコルを使用してそれ自身を公開するルーターのあるサブネット上にシステムがあることが必要です。コマンドラインインタフェースを使用する場合、システムの起動時に IP アドレスが自動的に検出されます。 • ルーターを使用していないか、この時点でソフトウェアによって IP アドレスを検出しない場合には、「None (なし)」を選択します。ソフトウェアは、リブート時に IP アドレスを自動的に検出しようとします。 	<ul style="list-style-type: none"> • IP アドレスを指定 • IP アドレスを検出 • なし*
タイムゾーン	デフォルトのタイムゾーンを指定する方法を選択してください。	<ul style="list-style-type: none"> • 地域* • GM からのオフセット • タイムゾーンファイル
ルートパスワード	システム用のルートパスワードを選択します。	

プリインストールされている Solaris 10 オペレーティングシステムの設定

設定を行うときは、「インストールのためのワークシート」(54 ページ) で収集した情報を使用します。

この手順では、サービスプロセッサ CLI に接続し、サービスプロセッサ CLI を使用してシステムコンソールにアクセスします。次の 2 つの方法のいずれかを選択できます。

- SSH を実行しているクライアントシステムを使用する (方法 1)。
- サーバーに直接接続したシリアルケーブルを使用する (方法 2)。

注 – システムコンソール画面には、システムの電源をオンにするまで何も表示されません。

開始前のご注意

SSH (方法 1) を使用する場合は、次の条件が満たされている必要があります。

- システムのシリアルポートの通信プロパティがデフォルトの値、つまり 9600 ボー、8N1 (データビット 8、パリティなし、ストップビット 1)、フローコントロール無効に設定されている必要があります。
- サービスプロセッサに接続されている NET MGT ポートと同じサブネットへの Ethernet 接続を確立する必要があります。
- サービスプロセッサの IP アドレスがわかっている必要があります。

これらの条件が満たされていない場合は、シリアルケーブル (方法 2) を使用します。

詳細については、『*Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 User's Guide* (Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド)』(820-1188) を参照してください。

手順

1. 次のいずれかの方法を使用して、サービスプロセッサに接続します。

方法 1: SSH を使用して接続するには、次の手順に従います。

a. SSH クライアントを開きます。

b. 次のコマンドを入力します。

```
ssh -l root <sp_ip_address>
```

サービスプロセッサにログインプロンプトが表示されます。

方法 2: シリアルケーブルおよび端末キャプチャプログラムを使用して接続するには、次の手順に従います。

- a. ケーブルを使用してサーバーのシリアルポートとシリアルキャプチャホストシステムのポートを接続します。
- b. 端末セッションを開始して、シリアルポート出力をキャプチャするには、次の手順に従います。
 - Solaris OS を実行しているクライアント上で、次のように入力します。
`$tip -9600 /dev/ttya`
 - Windows を実行しているクライアント上で、Hyperterminal などのプログラムを起動します。
 - Linux を実行しているクライアント上で、Linux のディストリビューションに含まれるテキストベースのシリアル通信プログラム (Minicom など) を起動します。詳細については、Linux のディストリビューションに含まれるマニュアルページを参照してください。

サービスプロセッサにログインプロンプトが表示されます。

2. 下の例のように、サービスプロセッサに Administrator としてログインします。

```
login: root
password: changeme
```

サービスプロセッサにプロンプトが表示されます。

->

3. 次を入力して、システムコンソールを起動します。

```
start /SP/console
```

システムの電源をオンにするまで、システムコンソールは非アクティブ (空白) のままです。

4. サーバーの前面パネルにある、へこんだ電源ボタンをベンや他の先の尖ったもので押します。電源ボタンの場所については、[図 4-1](#) を参照してください。

システムコンソールの画面上にメッセージが表示されます。

5. Solaris 10 の画面上のプロンプトに従います。

6. 「インストールのためのワークシート」(54 ページ) で収集した情報を使用して、プロンプトに従ってシステムおよびネットワーク情報を入力します。

ネットワーク情報をサーバーに割り当てる方法 (DHCP または静的 IP アドレス) に応じて、画面に表示される内容は異なります。

システム設定情報を入力すると、警告が表示され、システムがリポートします。リポートすると、Solaris ログインプロンプトが表示されます。

これで、インストールは完了です。

コンソールの出力をビデオポートにリダイレクトする (省略可)



注意 – この手順は Solaris の上級ユーザーのみを対象としています。bootenv.rc ファイルに問題がある場合は、サーバーの適切な機能が著しく損なわれたり、サーバーがリブートできなくなったりする可能性があります。

上記の手順を完了した後、SP にログインした状態で、コンソール出力をビデオポートにリダイレクトするには、次の引数を使用してプロンプトで `eeprom` コマンドを実行します。

```
/eeprom console=text/
```

▼ シリアルキャプチャプログラムを使用してサーバーに接続する

1. ケーブルを使用してサーバーのシリアルポートとシリアルキャプチャホストシステムのポートを接続します。
2. システムのシリアルポートの通信プロパティがデフォルトの値に設定されていることを確認します。

デフォルトの設定値は、9600 ボー、8N1 (データビット 8、パリティなし、ストップビット 1)、フローコントロール無効です。

3. 端末セッションを開始して、シリアルポート出力をキャプチャするには、次の手順に従います。

Solaris OS を実行しているクライアント上で、次のように入力します。

```
$tip -9600 /dev/ttya
```

Windows を実行しているクライアント上で、Hyperterminal などのプログラムを起動します。

Linux を実行しているクライアント上で、Linux のディストリビューションに含まれるテキストベースのシリアル通信プログラム (Minicom など) を起動します。詳細については、Linux のディストリビューションに含まれるマニュアルページを参照してください。

4. 下の例のように、サービスプロセッサに Administrator としてログインします。

```
login: root
```

```
password: changeme
```

サービスプロセッサにプロンプトが表示されます。

```
->
```

5. 次を入力して、システムコンソールを起動します。

```
start /SP/console
```

6. サーバーの前面パネルにある、へこんだ電源ボタンをペンや他の先の尖ったもので押して、サーバーへの主電源を投入します。

OS のブートアップ時に画面上に POST メッセージが表示されます。

7. Solaris 10 の画面上のプロンプトに従います。

8. 「インストールのためのワークシート」(54 ページ) で収集した情報を使用して、プロンプトに従ってシステムおよびネットワーク情報を入力します。

ネットワーク情報をサーバーに割り当てる方法 (DHCP または静的 IP アドレス) に応じて、画面に表示される内容は異なります。

システム設定情報を入力すると、サーバーのブートプロセスが完了され、Solaris ログインプロンプトが表示されます。

Solaris 10 のユーザーマニュアル

次の Web サイトで、Solaris 10 OS の各種ユーザードキュメントを参照できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/solaris.10>

特に、次の Web サイトでは、「Solaris 10 Release and Installation Collection (Solaris 10 リリースおよびインストールコレクション)」にアクセスできます。

<http://docs.sun.com/app/docs/coll/1236.1>

Solaris 10 のトレーニング

Sun は、お客様のスケジュールと学習スタイルに応じて柔軟なトレーニングオプションを提供しています。トレーニングの形態には、講師によるクラス、Web ベースのオンラインクラス、CD-ROM、ライブ仮想クラスなどがあります。Solaris 10 のトレーニングおよび認定オプションの一覧については、次のサイトを参照してください。

<http://www.sun.com/training/catalog/solaris10.html>

索引

C

CMA アセンブリ 25
CMA の確認 31
CMA の取り付け 25

D

DB-9 TTY コネクタ 7, 35, 39

E

Ethernet 接続
サービスプロセッサ 45

I

ILOM
Ethernet で設定 45
シリアルで設定 42
IP アドレス 5

L

LED、ポート、スロットの図 8, 9, 11, 36
Linux 6

N

NET0-NET3 ポートの図 36

P

PCI-E、PCI-X スロットの場所の図 36

R

RJ-45 ケーブル 7

S

sc シリアル管理ポートでのモデム使用の禁止 34, 38
Solaris
ドキュメント参照先 61
プリインストールの設定 54
ワークシート 54

T

TTYA シリアルポート 7

U

USB ポートの図 36, 37

V

VMware 6

W

Windows オペレーティングシステム 6

あ

アドレス、IP 5
アドレス、Web、「Web サイト」を参照
オプションコンポーネントの取り付け 3
オプションコンポーネントのリスト、
オンライン 3
オペレーティングシステム
Linux 6
Solaris 6
VMware 6
Windows 6

オペレーティングシステム、セットアップ 53
オンラインリスト、オプションコンポーネント 3

か

ゲートウェイ IP アドレス 5
ケーブル
シリアルデータケーブル用アダプタ 34, 38
ケーブル管理アセンブリ 25
固定部品の取り付け 18
コネクタの図 36
コンポーネント
オンラインサイトに掲載されているオプション
のコンポーネント 3

さ

最小限度のケーブル接続 6
サービスプロセッサ
Ethernet で設定 45
シリアルで設定 42
サービスプロセッサへのシリアル接続 42
サービスマニュアルの取り付け手順、オプションの
コンポーネント 3
システムコントローラ
シリアル管理ポートの接続 38
ネットワーク管理ポートの接続 38
ポートの場所の図 36
シリアル管理ポート RJ-45 コネクタ 38
シリアルケーブル用アダプタ 34, 38
シリアルポート (TTY) DB-9 コネクタ 35, 39
図
ポート、スロット、LED の場所 8, 9, 11
スライドレール 15
スライドレールの取り付け 17
スロット、ポート、LED の図 8, 9, 11, 36
製品アップデート ix

た

電源の場所の図 36
ドライバアップデート ix
取り付け手順、オプションのコンポーネント、
参照先 3
取り付け、ラックへ 15

な

ネットマスク 5
ネットワーク管理ポート
RJ-45 コネクタ 38

は

場所
ポート、スロット、LED 36
発送箱 4
必要な設定情報 5
ファームウェアアップデート ix
プリインストールされている Solaris の設定 54
ホットプラグ USB ポート 7
ポート、スロット、LED の図 8, 9, 11, 36
ポートの図 36
ボルト止めスライドレール構成部品の取り付け 20
ボルト止めレール構成部品 16

ら

ラックの互換性 16
ラックへの取り付け 15
ラックマウント 15
ロケータ LED ボタンの場所の図 36

わ

ワークシート、Solaris 54